Pioneer sound.vision.soul

DJミキサー

DJM-800

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
特に、**「安全上のご注意」**は必ずお読みください。
なお、「取扱説明書」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

目　次

ご使用の前に
付属品の確認 2
本機の特長 2
安全上のご注意 3
接続のしかた 5
　接続パネル 5
　入力端子の接続 6
　エフェクター、出力端子の接続 7
　MIDI端子について 7
　マイク、ヘッドホンの接続 8
　電源コードの接続 8
各部の名称とはたらき 9
　操作パネル 9
　表示部 12

操　作
ミキサー操作 13
　基本操作 13
　フェーダースタート機能 14
エフェクト機能 15
　ビートエフェクトの種類 15
　ビートエフェクト操作 17
　サウンドカラーエフェクトの種類 18
　サウンドカラーエフェクト操作 18
　エフェクトパラメーター 19
MIDIセッティング 20
　オーディオ信号に外部シーケンサーを同期させる、または外部シーケンサーをDJM-800の操作情報で操作する 20
　MIDIメッセージ一覧 20
　プログラムチェンジ 21
　スナップショット 21

その他
故障？ちょっと調べてください 22
保証とアフターサービスについて 23
仕　様 24
ブロックダイヤグラム 25
ご相談窓口・修理窓口のご案内 .... 裏表紙

付属品の確認

取扱説明書	1
電源コード	1
保証書	1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	1

本機の特長

① 高音質設計
アナログ信号は最短の伝送回路を通り、かつ96 kHzサンプリング、24-bit高音質A/Dコンバーターによってデジタル化されるため、最良の状態でデジタルミキシングステージへと導かれます。ミキシングは32-bit DSPによって音質劣化ゼロで実行され、同時に理想的なフィルタリングによりDJプレイに最適な音を生成します。
また高剛性筐体や二重シールド構造、強力な電源部など、「DJM-1000」で採用した高音質技術を継承し、クリアでパワフルなクラブサウンドを実現しました。

② サウンドカラーエフェクト
1）ハーモニックエフェクト
曲のキーを検出し、DJプレイに最適なキーにチューニングできる業界初の「ハーモニックエフェクト」搭載。
従来機種の曲のテンポ合わせだけでのDJプレイに比べ、より綺麗にスムーズにDJミックスができるようになります。
2）モジュレーションエフェクト
各チャンネルに「フィルター」「クラッシュ」「スイープ」のエフェクトを搭載。より直感的にエフェクトをかけることにより、DJプレイの幅が広がります。
また「ビートエフェクト」との組み合わせにより約50通りのエフェクトが実現でき、多彩なリミックス、DJプレイが可能となりました。

③ ビートエフェクト
「DJM-600」で好評な「ビートエフェクト」を継承。
計測したBPM（Beat Per Minute）に連動してエフェクトをかけることにより、様々な音の演出が可能です。
ディレイ/エコー/リバースディレイ/パン/トランス/フィルター/フランジャー/フェイザー/リバーブ/ロボット/コーラス/ロール/リバースロールと多彩なエフェクトが楽しめます。

④ デジタルイン/アウト
44.1 kHz/48 kHz/96 kHzの各サンプリングレートに対応したデジタル入力部により、デジタル機器の接続で音質劣化のないDJシステムが構築可能です。
また、96 kHz/24-bitフォーマット、48 kHz/24-bitフォーマットの各サンプリングによるデジタルアウトを搭載。高音質が要求されるスタジオ等でのトラック作成時にも便利です。
（リニアPCM以外は対応しておりません。）

⑤ MIDIアウト
DJM-800のほぼすべてのつまみやスイッチの情報を外部にMIDI信号で出力することができます。
このMIDI信号で外部機器を動作させることが可能です。

⑥ その他
- コントロールケーブルでの接続により、フェーダー操作に連動して当社DJ用CDプレーヤーがスタートする「フェーダースタートプレイ」が可能。
- 各帯域ごとに+6 dB〜−26 dBまでレベルコントロール可能な「3バンドイコライザー」搭載。
- 各chの入力をフレキシブルにクロスフェーダーにアサインできる「クロスフェーダーアサイン」搭載。
- マイク入力時に自動的に曲の音量を下げる「トークオーバー機能」搭載。
- クロスフェーダーとチャンネルフェーダーのカーブを変更できる「フェーダーカーブアジャスト」搭載。
- ブースモニターへのマイク音の出力をなくし、ハウリングを防止できる「マイクカット機能」搭載。
- チャンネルフェーダー部を別売のロータリーボリュームキット「**DJC-800RV**」により、スライドタイプからロータリータイプに変更可能。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警 告

〔異常時の処置〕

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

〔設置〕

- 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱により火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  - あおむけや横倒し、逆さまにする。
  - 押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
  - じゅうたんやふとんの上に置く。
  - テーブルクロスなどをかける。

〔使用環境〕

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
- 風呂場・シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト 50/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

〔使用方法〕

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
- ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
  火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
- 製品に付属の電源コンセントには、そのパネルおよび取扱説明書に表示された容量を超える消費電力を持つ電気機器を接続しないでください。火災の原因となります。
  電熱器具、ヘアードライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また表示してある電力以内であっても、電源を入れた時に大電流の流れる機器などは接続しないでください。

⚠ 注 意

〔設置〕

● 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ(遮断装置)に容易に手が届くように設置してください。

● 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

● 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

● ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

● 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

● 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

● 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

● 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

● 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

● 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

〔使用方法〕

● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

● ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

● 機器本体の電源スイッチを切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

〔保守・点検〕

● 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

● お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

設置場所について

● 熱を発生するアンプなどの上に直接置いたり、スポットライト等の近くで長時間使用すると、本体に悪い影響を与えますので、おやめください。

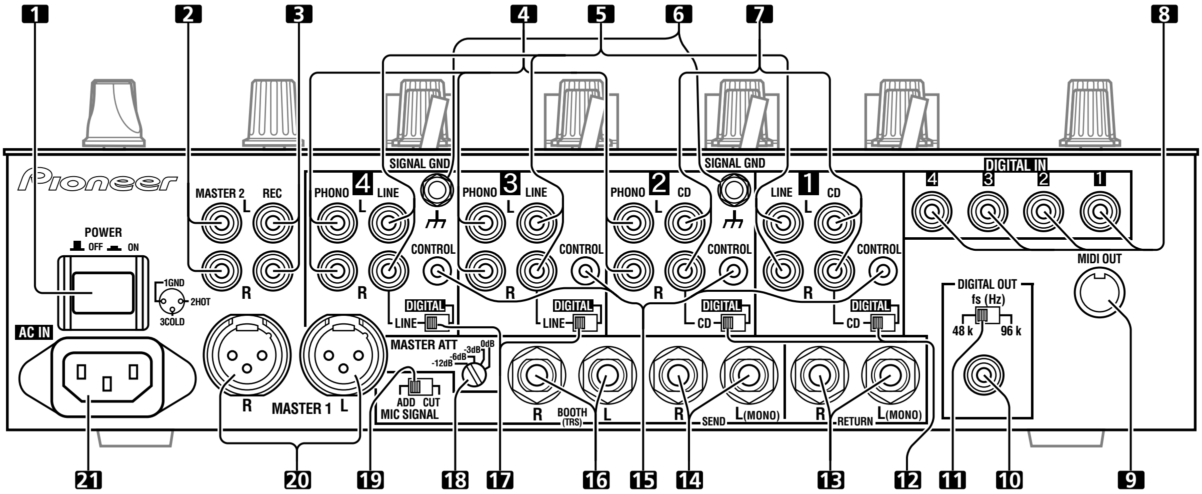
● チューナーやテレビから離して設置してください。近くに置いた場合は、雑音や映像の乱れが生じることがあります。なお、雑音や映像の乱れは室内アンテナをご使用の場合に起こりやすく、このようなときは、屋外アンテナを使用するか、本機の電源を切ってください。

製品のお手入れについて

通常は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

接続のしかた

接続パネル



1 電源スイッチ(POWER)

2 マスター出力端子2(MASTER2)
RCAタイプの不平衡出力です。

3 録音出力端子(REC)
RCAタイプの録音用出力端子です。

4 フォノ入力端子(PHONO)
RCAタイプのフォノレベル(MMカートリッジ用)入力端子です。
ラインレベルの信号を入力しないでください。

5 ライン入力端子(LINE)
RCAタイプのラインレベル入力端子です。
カセットデッキやラインレベルの出力機器と接続します。

6 信号グランド端子(SIGNAL GND)
アナログプレーヤーのアース線を接続します。
安全アース端子ではありません。

7 CD入力端子(CD)
RCAタイプのラインレベル入力端子です。
DJ用CDプレーヤーやラインレベルの出力機器と接続します。

8 デジタル入力端子(DIGITAL IN)
RCAタイプのデジタル同軸入力端子です。
DJ用CDプレーヤーなどのデジタル同軸出力端子と接続します。
- 出力信号のサンプリング周波数が切り換わった際に、音声が一瞬途切れることがあります。

9 MIDI出力端子(MIDI OUT)
DINタイプの出力端子です。
他のMIDI機器と接続します(20ページ参照)。

10 デジタル出力端子(DIGITAL OUT)
RCAタイプのデジタル同軸出力端子です。
マスター音声のデジタル出力です。

11 サンプリング周波数切換スイッチ(fs 48 k/96 k)
デジタル出力のサンプリング周波数を96 kHz/24-bitフォーマットと48 kHz/24- bitフォーマットから選択します。
- スイッチの切り換えは、電源OFF時に行ってください。

12 デジタル/CD入力切換スイッチ(DIGITAL/CD)
アナログ入力(CD)またはデジタル入力(DIGITAL IN)を選択します。

13 リターン端子(RETURN)
φ6.3 mmフォーンタイプの入力端子です。
外部エフェクターなどの出力端子と接続します。
Lチャンネルのみ接続した場合は、Lチャンネルに入った入力がRチャンネルにも入力されます。

14 センド出力端子(SEND)
φ6.3 mmフォーンタイプの出力端子です。
外部エフェクターなどの入力端子と接続します。
Lチャンネルのみ接続した場合は、L+Rのモノラル信号を出力します。

15 コントロール端子(CONTROL)
φ3.5 mmミニフォーンタイプのDJ用CDプレーヤーコントロール端子です。
本機のフェーダーでDJ用CDプレーヤーのスタート・ストップをコントロールします。

16 ブースモニター出力端子(BOOTH)
φ6.3 mmフォーンタイプのブースモニター用出力端子です。
MASTER LEVELツマミと関係なくBOOTH MONITORレベルツマミで音量を調整できます。(TRS出力のため、バランス、アンバランス出力に対応しています。)

17 デジタル/ライン入力切換スイッチ (DIGITAL/LINE)
アナログ入力(LINE)またはデジタル入力(DIGITAL IN)を選択します。

18 マスター出力アッテネーター選択スイッチ (MASTER ATT)
マスター1出力とマスター2出力の出力レベルを減衰します。
0 dB、−3 dB、−6 dB、−12 dBから選択できます。

19 マイクシグナルスイッチ (MIC SIGNAL ADD/CUT)
「ADD」位置にすると、BOOTHモニター出力端子にマイク1およびマイク2を出力します。
「CUT」位置にすると、BOOTHモニター出力端子にマイク1およびマイク2を出力しません。

20 マスター出力端子1(MASTER1)
XLRタイプ(オス)の平衡出力です。
- RCAタイプのコードをご使用の際は、XLR/RCA変換プラグをご使用にならずにMASTER2端子への接続をお勧めします。

21 電源インレット端子(AC IN)
付属の電源コードで壁のACコンセントと接続します。

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

入力端子の接続

パイオニア製DJ用CDプレーヤー

DJ用CDプレーヤーの音声出力端子を本機のチャンネル1～2の**CD**入力端子またはチャンネル3～4の**LINE**入力端子の1つに接続し、コントロールコードを同じチャンネルの**CONTROL**端子に接続します。
接続したチャンネルの**DIGITAL/CD**スイッチまたは**DIGITAL/LINE**スイッチを「**CD**」または「**LINE**」に、入力切換スイッチを「**CD/DIGITAL**」または「**LINE/DIGITAL**」にします。
デジタル接続する場合は、DJ用CDプレーヤーのデジタル同軸出力端子を本機のチャンネル1～4の**DIGITAL IN**端子の1つに接続し、接続したチャンネルの**DIGITAL/CD**スイッチまたは**DIGITAL/LINE**スイッチを「**DIGITAL**」に、入力切換スイッチを「**CD/DIGITAL**」または「**LINE/DIGITAL**」にします。

アナログターンテーブル

アナログターンテーブルの音声出力コードを本機のチャンネル2～4の**PHONO**入力端子の1つに接続し、接続したチャンネルの入力切換スイッチを「**PHONO**」にします。本機のPHONO入力はMMカートリッジ用です。
アナログターンテーブルのアース線は、本機の**SIGNAL GND**端子のいずれかに接続します。

- チャンネル1には**PHONO**入力端子はありません。

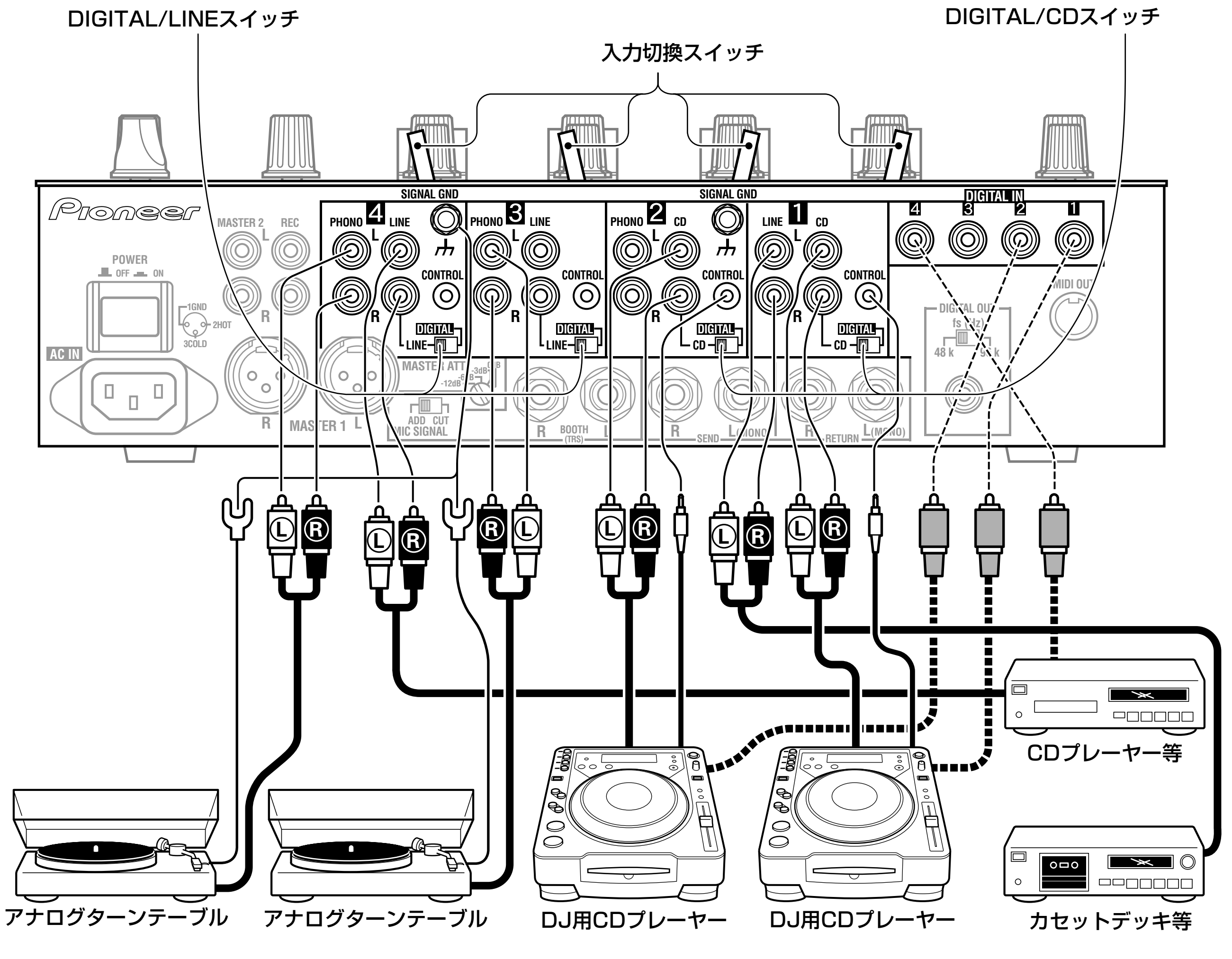
その他のラインレベル出力機器

カセットデッキやCDプレーヤーは、音声出力端子を本機のチャンネル3～4の**LINE**入力端子の1つに接続し、接続したチャンネルの**DIGITAL/LINE**スイッチを「**LINE**」に、入力切換スイッチを「**LINE/DIGITAL**」にします。
または、チャンネル1の**LINE**入力端子に接続し、チャンネル1の入力切換スイッチを「**LINE**」にします。

デジタル出力機器

CDプレーヤー等でデジタル接続する場合は、機器のデジタル同軸出力端子を本機のチャンネル1～4の**DIGITAL IN**端子の1つに接続し、接続したチャンネルの**DIGITAL/CD**スイッチまたは**DIGITAL/LINE**スイッチを「**DIGITAL**」に、入力切換スイッチを「**CD/DIGITAL**」または「**LINE/DIGITAL**」にします。

- 出力信号のサンプリング周波数が切り換わった際に、音声が一瞬途切れることがあります。



エフェクター、出力端子の接続

マスター出力

XLRプラグ対応の平衡出力の**MASTER1**とRCAプラグ対応の不平衡出力の**MASTER2**があります。
MASTER ATT切換スイッチで、接続するパワーアンプの入力感度に合わせて、出力レベルを設定します。
操作パネルのSTEREO/MONOスイッチを「**MONO**」にすると、マスター出力がL+Rのモノラルになります。

ブースモニター出力

φ6.3 mmのフォーンプラグ対応のTRS出力です。マスター出力レベルと関係なく**BOOTH MONITOR**レベルツマミで音量を調整できます。

録音出力

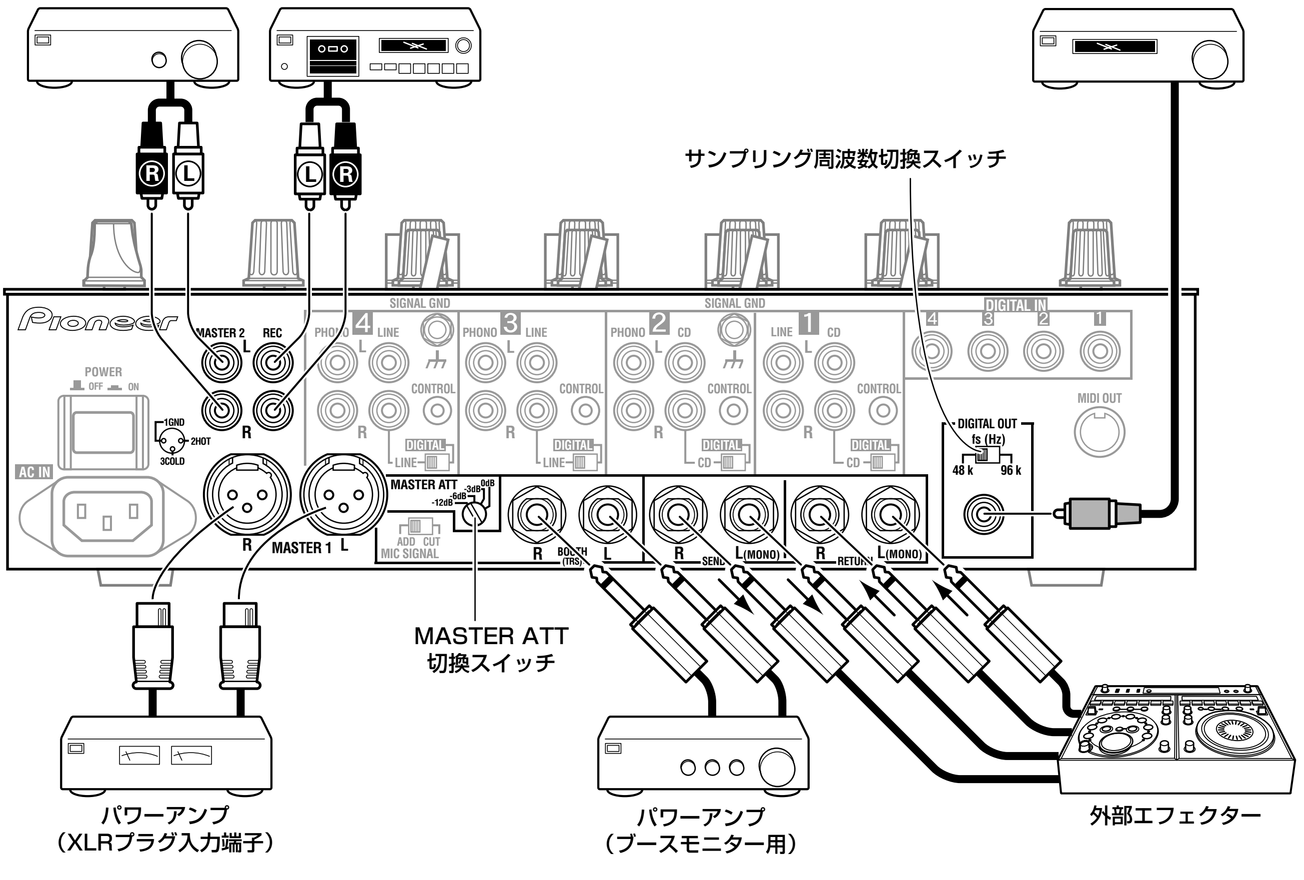
RCAプラグ対応の録音用出力端子です。

デジタル出力

RCAプラグ対応の同軸デジタル出力端子です。接続する機器に合わせて、サンプリング周波数を選択できます（96 kHz/24-bitフォーマット、48 kHz/24-bitフォーマット）。
- スイッチの切り換えは、電源OFF時に行ってください。

外部エフェクター

φ6.3 mmのフォーンプラグで外部エフェクターの入力端子を本機の**SEND**端子に接続します。
モノラル入力のエフェクターを使用するときは、Lチャンネル出力のみに接続します。エフェクターにはLRミックスされた音声が送られます。
φ6.3 mmのフォーンプラグで外部エフェクターの出力端子を本機の**RETURN**端子に接続します。
モノラル出力のエフェクターを使用するときは、Lチャンネル入力のみに接続します。エフェクターからの信号はLR両方のチャンネルに入力されます。
外部エフェクターを使用する際は、エフェクト選択スイッチを「**SND/RTN**」位置にしてください。



MIDI端子について

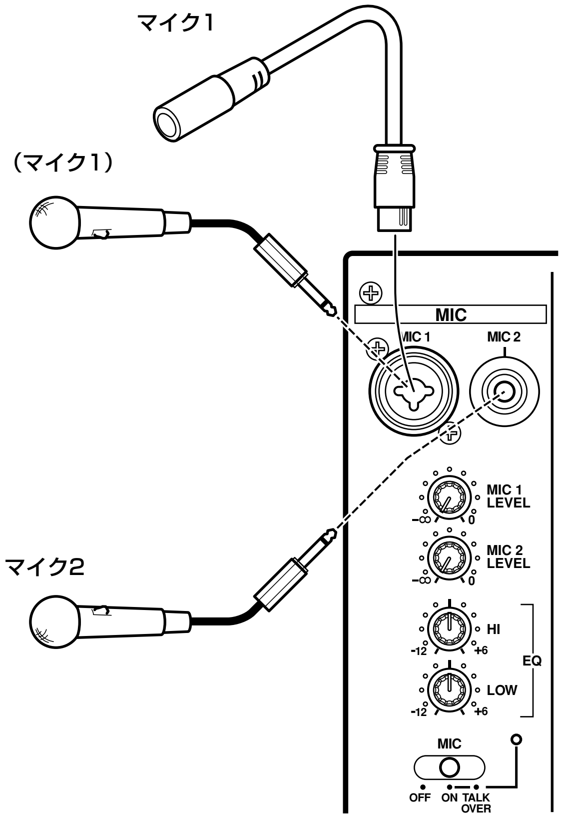
MIDI端子の機能については、20ページをご覧ください。

マイク、ヘッドホンの接続

マイク

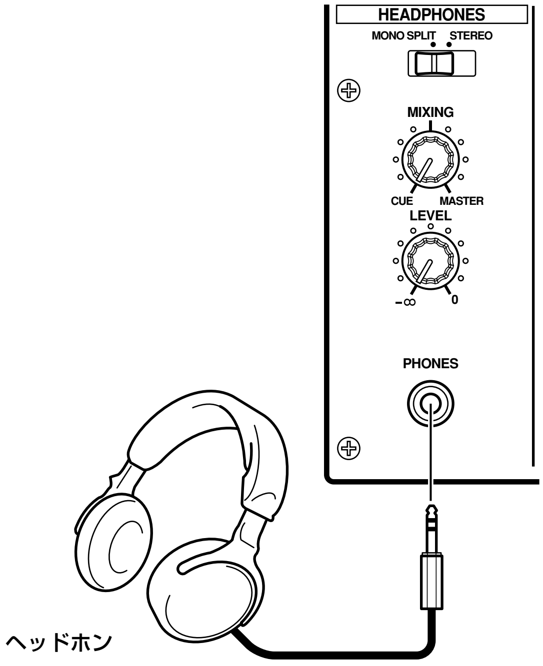
操作パネル（上面）のMIC 1端子にφ6.3 mmのフォーンプラグまたはXLRプラグのマイクを接続できます。
操作パネル（上面）のMIC 2端子にφ6.3 mmのフォーンプラグのマイクを接続できます。

- 接続パネルのMIC SIGNALスイッチを「CUT」にすると、BOOTHモニター出力端子からマイク音声は出力されません。
- マイクを使用する際に、操作パネルのMICスイッチを「ON」または「TALK OVER」に切り換えて、レベルを調整してください。
  使用しない時はMICスイッチを「OFF」にし、レベルを「－∞」にしておくことをお勧めします。



ヘッドホン

操作パネル（上面）のPHONES端子にφ6.3 mmのステレオフォーンプラグのヘッドホンを接続できます。



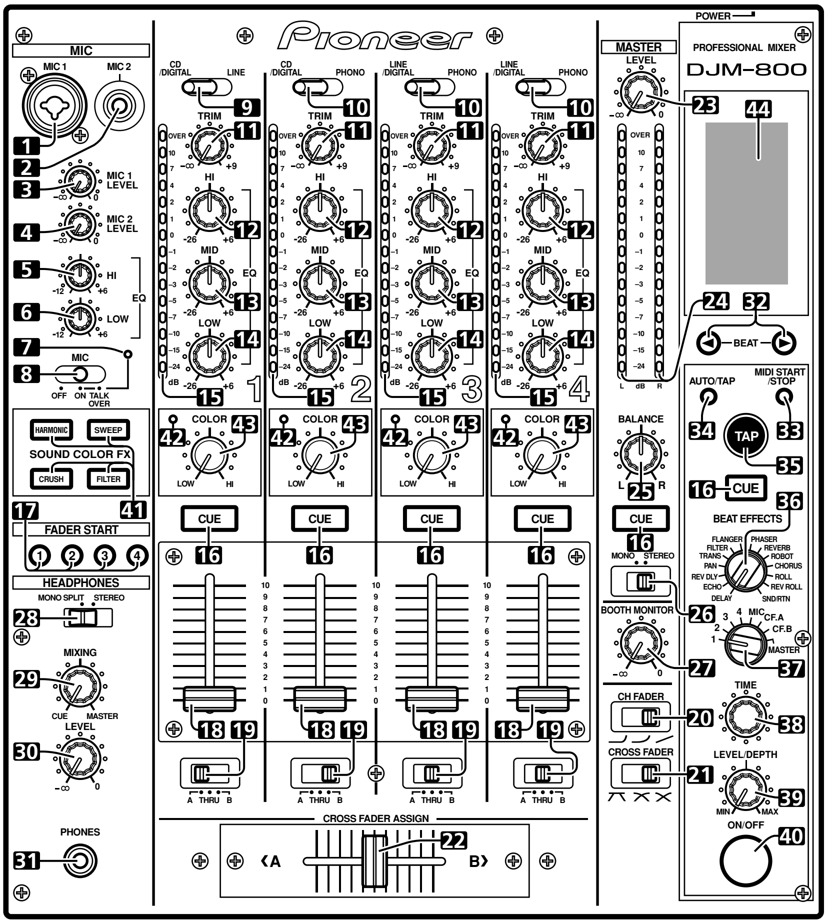
電源コードの接続

電源コードは最後に接続してください。

- すべての接続が終了したら、プレーヤー部後面にあるACインレットに付属の電源コードの一端を差し込み、電源プラグを壁の電源コンセントまたはアンプの予備電源コンセントへ接続します。
- 必ず付属の電源コードをご使用ください。

各部の名称とはたらき

操作パネル



マイク入力コントロール部

1 マイク 1 入力端子 (MIC 1)

XLRタイプまたはフォーンタイプの端子を持つマイクを接続します。

2 マイク 2 入力端子 (MIC 2)

フォーンタイプの端子を持つマイクを接続します。

3 マイク 1 レベル調整ツマミ (MIC 1 LEVEL)

マイク 1 の音量を調整します。
（調整範囲：－∞～ 0 dB）

4 マイク 2 レベル調整ツマミ (MIC 2 LEVEL)

マイク 2 の音量を調整します。
（調整範囲：－∞～ 0 dB）

5 マイクイコライザ高音調整ツマミ (HI)

マイク 1 と 2 の高音を調整します。
（調整範囲：－ 12 dB ～＋ 6 dB）

6 マイクイコライザ低音調整ツマミ (LOW)

マイク 1 と 2 の低音を調整します。
（調整範囲：－ 12 dB ～＋ 6 dB）

7 マイク機能インジケーター

マイク ON 時に点灯します。
TALK OVER ON 時に点滅します。

8 マイク機能切換スイッチ (MIC)

OFF:

マイク音声は出力されません。

ON:

マイク音声は出力されます。

TALK OVER:

マイク音声は出力されます。マイク入力に音が入力されたら、トークオーバー機能が働き、マイク音声以外のすべての出力が 20 dB 減衰されます。

- トークオーバー機能を使用しないときは、「OFF」か「ON」にしておくことをお勧めします。

チャンネル入力コントロール部

9 チャンネル 1 入力選択スイッチ

CD/DIGITAL :

CD 入力端子（ラインレベルアナログ入力）または DIGITAL 入力端子が選ばれます。

LINE :

LINE 入力端子が選ばれます。

10 チャンネル 2 ～ 4 入力選択スイッチ

CD/DIGITAL（チャンネル 2）:

CD 入力端子（ラインレベルアナログ入力）または DIGITAL 入力端子が選ばれます。

LINE/DIGITAL（チャンネル 3 ～ 4）:

LINE 入力端子（ラインレベルアナログ入力）または DIGITAL 入力端子が選ばれます。

PHONO :

PHONO 入力端子（アナログターンテーブル入力）が選ばれます。

11 トリム調整ツマミ (TRIM)
各チャンネルの入力レベルを調整します。
(調整範囲:−∞〜+9 dB、中央位置でほぼ0 dB)

12 チャンネルイコライザ高音調整ツマミ (HI)
各チャンネルの高音を調整します。
(調整範囲:−26 dB〜+6 dB)

13 チャンネルイコライザ中音調整ツマミ (MID)
各チャンネルの中音を調整します。
(調整範囲:−26 dB〜+6 dB)

14 チャンネルイコライザ低音調整ツマミ (LOW)
各チャンネルの低音を調整します。
(調整範囲:−26 dB〜+6 dB)

15 チャンネルレベルインジケーター
各チャンネルレベルを表示します。2秒間ピークホールドします。

16 ヘッドホンキューボタン/インジケーター (CUE)
チャンネル1〜4、MASTER、エフェクターから希望のソースのボタンを押して、ヘッドホンを使ってモニターするソースを選択します。複数のボタンを同時に押すと、選択された音声がミックスされます。ボタンをもう一度押すと選択が解除されます。
選択されていないソースのボタンは暗く点灯し、選択されたソースのボタンは明るく点灯します。

フェーダーコントロール部

17 フェーダースタートボタン/インジケーター (FADER START 1〜4)
DJ用CDプレーヤーを接続したチャンネルの、フェーダースタート・バックキュー機能をON/OFFします。ONにするとボタンが点灯します。ONのときの動作はCROSS FADER ASSIGNスイッチの設定により動作が異なります。
- CROSS FADER ASSIGNスイッチが「A」または「B」位置のとき、クロスフェーダーの操作に連動します(チャンネルフェーダーには非連動)。
- CROSS FADER ASSIGNスイッチが「THRU」位置のとき、チャンネルフェーダーの操作に連動します(クロスフェーダーには非連動)。

18 チャンネルフェーダー
各チャンネル音量を調整します。(調整範囲:−∞〜0 dB)
CH FADERカーブ選択スイッチによって選ばれたチャンネルフェーダーカーブに従い出力します。

19 クロスフェーダーアサインスイッチ (CROSS FADER ASSIGN)
各チャンネルの出力を、クロスフェーダーの左右どちら側に割り当てるかを選択します。(複数のチャンネルが同じ側を選択した場合、それらを加算したものが割り当てられます。)
A:
そのチャンネルの出力をクロスフェーダーのA側(左側)に割り当てます。
THRU:
チャンネルフェーダーの出力はクロスフェーダーを通らずに、そのままマスター出力に出ていきます。
B:
そのチャンネルの出力をクロスフェーダーのB側(右側)に割り当てます。

20 チャンネルフェーダーカーブ選択スイッチ (CH FADER)
チャンネルフェーダーのカーブ特性を3種類から選択します。
チャンネル1〜4は同じ設定になります。
- 左位置にすると、チャンネルフェーダーが奥側で急峻に立ち上がるカーブになります。
- 右位置にすると、平均的に徐々に立ち上がるカーブになります。
- 中央位置にすると、上記2つの中間のカーブになります。

21 クロスフェーダーカーブ選択スイッチ (CROSS FADER)
クロスフェーダーのカーブ特性を3種類から選択します。
- 左位置にすると急峻に立ち上がるカーブになります。
(ツマミが「A」側の端から離れると、すぐに「B」の音声が出る。)
- 右位置にすると、平均的に徐々に立ち上がるカーブになります。
- 中央位置にすると、上記2つの中間のカーブになります。

22 クロスフェーダー
各チャンネルのCROSS FADER ASSIGNスイッチによって「A」側、「B」側に割り振られた音声を、CROSS FADERカーブ選択スイッチによって選ばれたクロスフェーダーカーブに従い出力します。

マスター出力コントロール部

23 マスター出力レベル調整ツマミ(MASTER LEVEL)
マスター出力の音量を調整します。(調整範囲:−∞〜0 dB)
マスター出力は、CROSS FADER ASSIGNスイッチを「THRU」にしたチャンネルの音声と、クロスフェーダーを通った音声と、マイク1とマイク2の音声が加算されたものです(エフェクト選択スイッチを「SND/RTN」位置にしたときはRETURN入力も加算されます)。

24 マスターレベルインジケーター(MASTER L、R)
Lチャンネルと Rチャンネルの出力レベルを表示します。2秒間ピークホールドします。

25 マスターバランスツマミ (BALANCE)
マスター出力、ブースモニター出力、録音出力、デジタル出力のL/Rチャンネルバランスを調整します。

26 マスター出力ステレオ/モノラル切換スイッチ (STEREO/MONO)
「MONO」位置にすると、マスター出力がL+Rのモノラルになります。

ブースモニターコントロール部

27 ブースモニターレベル調整ツマミ (BOOTH MONITOR)
ブースモニター出力の音量を調整します。
マスター出力レベルとは無関係に調整できます。
(調整範囲:−∞〜0 dB)

ヘッドホン出力部

28 ヘッドホン出力切換スイッチ (MONO SPLIT/STEREO)

MONO SPLIT:
Lチャンネルにヘッドホン CUE ボタンで選択されたソースの音声が出力され、R チャンネルにマスター音声が出力されます（ヘッドホン CUE ボタンで「MASTER」を選択時のみ）。

STEREO:
ヘッドホン CUE ボタンで選択された音声がステレオで出力されます。

29 ヘッドホンミキシングツマミ(MIXING)

右（MASTER 側）に回すとマスター出力の音声（ヘッドホン CUE ボタンで「MASTER」を選択時のみ）、左（CUE 側）に回すとヘッドホン CUE ボタンで選択されたチャンネルとエフェクトモニターのミックス音声が出力されます。

30 ヘッドホンレベル調整ツマミ(LEVEL)

ヘッドホン端子の出力音量を調整します。
（調整範囲：－∞～ 0 dB）

31 ヘッドホン端子(PHONES)

BPM 計測部

32 ビート選択ボタン(BEAT ◄、►)

►（ビートアップ）: BPM から計算される拍数を倍にします。
◄（ビートダウン）: BPMから計算される拍数を半分にします。（17 ページ）
- 一部のエフェクトには「3/4」の設定があります。

33 MIDI スタート／ストップボタン (MIDI START/STOP)

MIDI コントロール機能のスタート／ストップを切り換えます（20 ページ）。
切換時に表示部に 2 秒間「MIDI START (STOP)」と表示されます。

MIDI SNAP SHOT:
MIDI START/STOP ボタンを押し続けると、外部 MIDI 機器にスナップショットを送信します。

34 BPM 測定モードボタン(AUTO/TAP)

BPM 測定モードが押すたびに切り換わります。

AUTO:
表示部の「AUTO」インジケーターが点灯し、BPM を自動測定します。

TAP:
表示部の「TAP」インジケーターが点灯し、BPM を TAP ボタンでマニュアル入力します。

35 タップボタン(TAP)

TAP ボタンを押した（叩いた）間隔から BPM を算出します。
AUTO モードで TAP ボタンを押すと、自動的に TAP モード（マニュアル入力）になります。

ビートエフェクト部

36 エフェクト選択スイッチ(DELAY、ECHO、REV DLY (REVERSE DELAY)、PAN、TRANS、FILTER、FLANGER、PHASER、REVERB、ROBOT (ROBOT VOCODER)、CHORUS、ROLL、REV ROLL (REVERSE ROLL)、SND/RTN (SEND/RETURN))

エフェクトの種類を選択します。（15 ページ）
SEND 端子と RETURN 端子に接続した外部エフェクターを使用する際は、「SND/RTN」位置にします。

37 エフェクトチャンネル選択スイッチ （1、2、3、4、MIC、CF.A、CF.B、MASTER)

エフェクトをかけるチャンネルを選択します。（17 ページ）
「MIC」選択時はマイク 1 とマイク2の両方にエフェクトがかかります。

38 エフェクトパラメーター 1 ツマミ(TIME)

選択したエフェクトに対する時間的なパラメーターを調整します。（17、19 ページ）
- TAP ボタンを押しながら TIME ツマミを回すと、BPM を手動で直接設定できます。
- TAP ボタンと AUTO/TAP ボタンを押しながら TIME ツマミを回すと、BPM を 0.1 単位で設定できます。

39 エフェクトパラメーター 2 ツマミ (LEVEL/DEPTH)

選択したエフェクトに対する量的なパラメーターを調整します。（17、19 ページ）

40 エフェクトボタン／インジケーター(ON/OFF)

選択したエフェクトを ON/OFF します。（17 ページ）
電源を ON したときエフェクトは OFF でボタンが点灯します。
エフェクトを ON にするとボタンが点滅します。

サウンドカラーエフェクト部

41 サウンドカラーエフェクト選択ボタン／インジケーター (HARMONIC、SWEEP、FILTER、CRUSH)

サウンドカラーエフェクトの選択と ON/OFF を行います。（18 ページ）
選択された機能のボタンが点滅し、チャンネル 1 ～ 4 に共通に働きます。点滅しているボタンを押すと点灯し、エフェクトが OFF になります。
電源を ON したときは、すべて OFF（点灯）になります。

42 ハーモニックインジケーター

HARMONIC を ON にすると点灯し、エフェクトの状況に応じて色が変化します。（18 ページ）

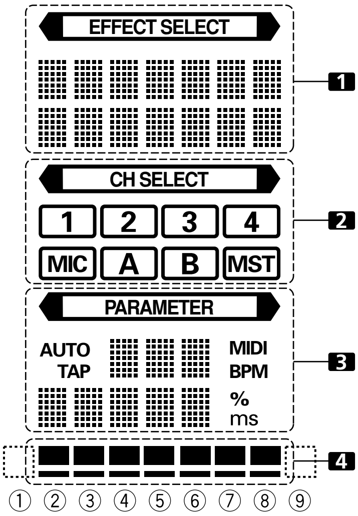
43 サウンドカラーエフェクトパラメーターツマミ (COLOR)

サウンドカラーエフェクトで選択したエフェクトに対する、量的なパラメーターを調整します。（18、19 ページ）

44 表示部

12 ページをご覧ください。

表示部



1 エフェクト表示部

<EFFECT SELECT>は常時点灯し、文字表示部（7文字2行）にエフェクト名を下の表の様に表示します。
また、以下の切り換え動作により対応する文字を2秒間表示し、表示終了後は元のエフェクト名表示に戻ります。

切り換え動作	上／下段	表示
MIDI スタート時	上段	MIDI
	下段	START
MIDI ストップ時	上段	MIDI
	下段	STOP
MIDI SNAP SHOT	上段	SNAP
	下段	SHOT

2 チャンネルセレクト表示部

<CH SELECT>は常時点灯し、エフェクトチャンネル選択スイッチで選択されたポジションが赤枠で表示されます。

3 パラメーター表示部

<PARAMETER>：
常時点灯します。
AUTO/TAP：
BPM測定モードがオートモードのときに「AUTO」が点灯し、マニュアルモードのときに「TAP」が点灯します。
BPM値表示（3桁）**：**
オートモードのときは、自動で検出したBPM値を表示します。
検出できない場合は、前回検出した値で点滅します。
マニュアルモードのときは、TAP入力等で指定したBPMを表示します。
BPM：
常時点灯します。
MIDI：
MIDIスタート／ストップの状態を表します。
- MIDIスタートコマンドを送信後に点灯します。
- MIDIストップコマンドを送信後に消灯します。

パラメーター1表示（5桁）**：**
エフェクトごとに指定されたパラメーターを表示します。
ビート選択ボタン（BEAT ◄、►）を押したとき、対応する拍切り換えの倍率を1秒間表示します。
ビート選択ボタン（BEAT ◄、►）でパラメーター範囲外が指定された場合は、数値は変化せずに点滅します。
単位表示（% / ms）：
エフェクトごとの単位に合わせて点灯します。

4 ビート表示部

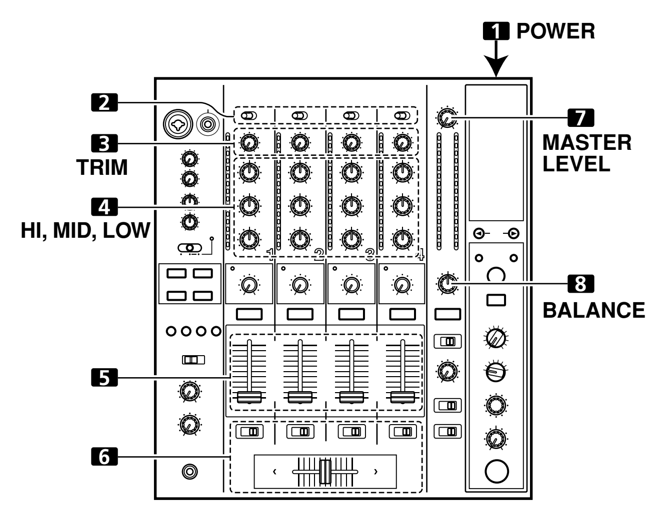
BPMを基準（1/1拍）としたときのパラメーター1の位置を表示します。下部は常に点灯します。
しきい値付近にあるときは、対応するものを点灯表示します。
しきい値の間にあるときは、点滅表示します。
表示は7つですが、端にもあると考え、理論的に9つあるものとします。両端のときは、何も点灯しません。

エフェクト選択スイッチ	1エフェト表示		3パラメーター表示				4ビート表示								
	上／下段	エフェクト名	最小値	最大値	初期値	単位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
DELAY	上段	DELAY	1	4 000	500	mS	1/8	1/4	1/2	3/4	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1
	下段														
ECHO	上段	ECHO	1	4 000	500	mS	1/8	1/4	1/2	3/4	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1
	下段														
REV DLY	上段	REVERSE	10	4 000	500	mS	1/8	1/4	1/2	3/4	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1
	下段	DELAY													
PAN	上段	PAN	10	16 000	500	mS	1/16	1/8	1/4	1/2	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1
	下段														
TRANS	上段	TRANS	10	16 000	500	mS	1/16	1/8	1/4	1/2	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1
	下段														
FILTER	上段	FILTER	10	32 000	2 000	mS	1/4	1/2	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1	32/1	64/1
	下段														
FLANGER	上段	FLANGER	10	32 000	2 000	mS	1/4	1/2	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1	32/1	64/1
	下段														
PHASER	上段	PHASER	10	32 000	2 000	mS	1/4	1/2	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1	32/1	64/1
	下段														
REVERB	上段	REVERB	1	100	50	%	10	20	30	40	50	60	70	80	90
	下段														
ROBOT	上段	ROBOT	−100	100	0	%	–	−100	−66	−50	0	26	50	100	–
	下段														
CHORUS	上段	CHORUS	10	32 000	2 000	mS	1/4	1/2	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1	32/1	64/1
	下段														
ROLL	上段	ROLL	10	4 000	500	mS	1/16	1/8	1/4	1/2	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1
	下段														
REV ROLL	上段	REVERSE	10	4 000	500	mS	1/16	1/8	1/4	1/2	1/1	2/1	4/1	8/1	16/1
	下段	ROLL													
SND/RTN	上段	SEND/													
	下段	RETURN													

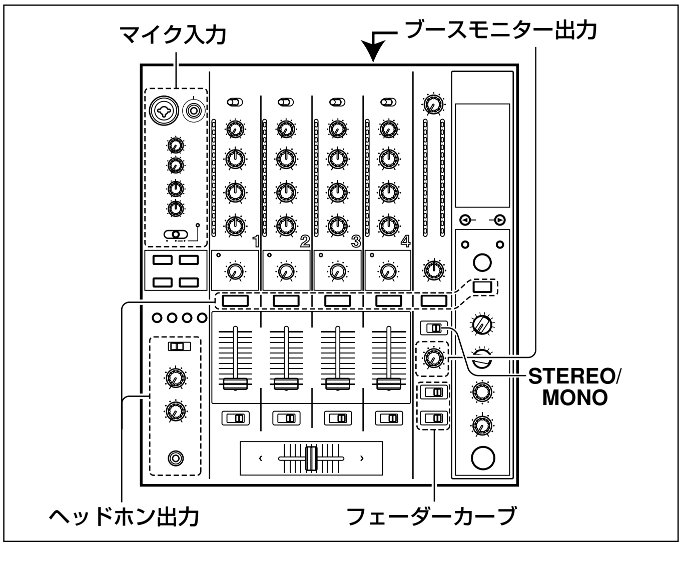
（灰色）部は表示されません。

ミキサー操作

基本操作



1. 後面(接続パネル)のPOWERスイッチをONにする。
2. 使用するチャンネルの入力切換スイッチを接続した機器に合わせる。
   - CD入力またはLINE入力を使用するときは、接続パネルのDIGITAL/CDスイッチまたはDIGITAL/LINEスイッチを「CD」または「LINE」にする必要があります。
   - DIGITAL入力を使用するときは、接続パネルのDIGITAL/CDスイッチまたはDIGITAL/LINEスイッチを「DIGITAL」にする必要があります。
3. TRIMツマミで入力レベルを調整する。
4. チャンネルイコライザーツマミ(HI、MID、LOW)で音質を調整する。
5. チャンネルフェーダーで使用するチャンネルの音量を調整する。
6. 使用するチャンネルをクロスフェードするときは、CROSS FADER ASSIGNスイッチでクロスフェーダーのチャンネルAかチャンネルBを選び、クロスフェーダーを操作する。
   - クロスフェーダーを使用しないときはCROSS FADER ASSIGNスイッチを「THRU」にします。
7. MASTER LEVELツマミで全体の音量を調整する。
8. BALANCEツマミで左右チャンネルの音量バランスを調整する。



【ステレオ/モノラル切換】

STEREO/MONOスイッチを「MONO」位置にするとマスター出力がL+Rのモノラルになります。

【マイク入力】

1. マイクを使用するときはMICスイッチをONまたはTALK OVERにする。
   - 「TALK OVER」にしたときは、マイクに－15 dB以上の音が入力されると、マイク音声以外の全ての出力が20 dB減衰されます。
2. MIC 1 LEVELツマミでMIC 1の音量を調整し、MIC 2 LEVELツマミでMIC 2の音量を調整する。
3. マイクイコライザーツマミ(HI、LOW)で音質を調整する。
   - マイクイコライザーはマイク1と2に共通に機能します。

【ブースモニター出力】

1. 接続パネルのMIC SIGNALスイッチで、マイクの音声をブースモニターに出力するか否かを選択する。
   - 「ADD」位置のときにマイク音声がブースモニターに出力され、「CUT」位置のときにはマイク音声がブースモニターに出力されません。
2. BOOTH MONITORツマミで音量を調整する。
   - MASTER LEVELツマミに関係なくBOOTH MONITORツマミで音量を調整できます。

【ヘッドホン出力】

1. CUEボタン(チャンネル1～チャンネル4、MASTER、エフェクター)でソースを選ぶ。
   - 選んだCUEボタンが明るく点灯します。
2. MONO SPLIT/STEREOスイッチを選択する。
   - 「MONO SPLIT」位置では左チャンネルにCUEボタンで選択された音声、右チャンネルにマスター音声(MASTERのCUEボタンをONしたときのみ)が出力されます。
   - 「STEREO」位置ではCUEボタンで選択された音声がステレオで出力されます。
3. MIXINGツマミでMONO SPLIT時の左チャンネル(CUEボタンで選択された音声)と右チャンネル(マスター音声(MASTERのCUEボタンをONしたときのみ))の音量バランスを調整する。
   - 右(MASTER側)に回すとマスター出力の音声(MASTERのCUEボタンをONしたときのみ)、左(CUE側)に回すとCUEボタンで選択された音声が出力されます。
4. LEVELツマミでヘッドホンの音量を調整する。

【フェーダーカーブの選択】

フェーダーの操作に対応する音量変化特性を3種類から選択できます。

■ **CH FADERスイッチで、チャンネルフェーダーのカーブ特性を選択する。**
- 左位置にすると、チャンネルフェーダーが奥側で急峻に立ち上がるカーブになります。
- 右位置にすると、平均的に徐々に立ち上がるカーブになります。
- 中央位置にすると、上記2つの中間のカーブになります。
- チャンネル1～4は同じ設定になります。

■ **CROSS FADERスイッチで、クロスフェーダーのカーブ特性を選択する。**
- 左位置にすると急峻に立ち上がるカーブになります。
  (ツマミが「A」側の端から離れると、すぐに「B」の音声が出る。)
- 右位置にすると、平均的に徐々に立ち上がるカーブになります。
- 中央位置にすると、上記2つの中間のカーブになります。
- A、B両側のカーブが同じ設定になります。

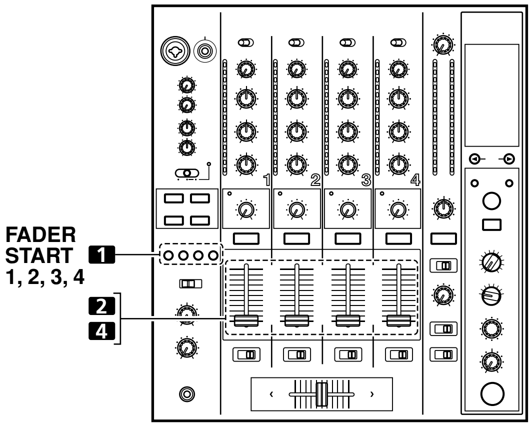
フェーダースタート機能

別売のパイオニア製DJ用CDプレーヤーのコントロールコードを接続すると、チャンネルフェーダーやクロスフェーダーでCDプレーヤーの演奏をスタートすることができます。
ミキサーのチャンネルフェーダーまたはクロスフェーダーツマミを動かすと、CDプレーヤーのポーズが解除され、自動的かつ瞬時に曲がスタートします。また、フェーダーの位置を元に戻すと、CDプレーヤーをキューポイントまで戻すこと(バックキュー)ができるのでサンプラーのようなプレイもできます。

クロスフェーダースタートプレイ&バックキュープレイ

クロスフェーダーのチャンネルAにアサインされたCDプレーヤーがキューポイントでスタンバイ時に、クロスフェーダーツマミを右端(B側)から左(A側)へ動かすだけでチャンネルAのCDプレーヤーがスタートします。
クロスフェーダーツマミが左端(A側)に到達するとチャンネルBにアサインされたCDプレーヤーがバックキューします(キューポイントに戻ります)。また、チャンネルBにアサインされたCDプレーヤーがキューポイントでスタンバイ時に、クロスフェーダーツマミを左端(A側)から右(B側)へ動かすだけでチャンネルBのCDプレーヤーがスタートします。
クロスフェーダーツマミが右端(B側)に到達するとチャンネルAにアサインされたCDプレーヤーがバックキューします。
※ 入力切換スイッチが「CD/DIGITAL」または「LINE/DIGITAL」を選択していなくても、バックキューします。

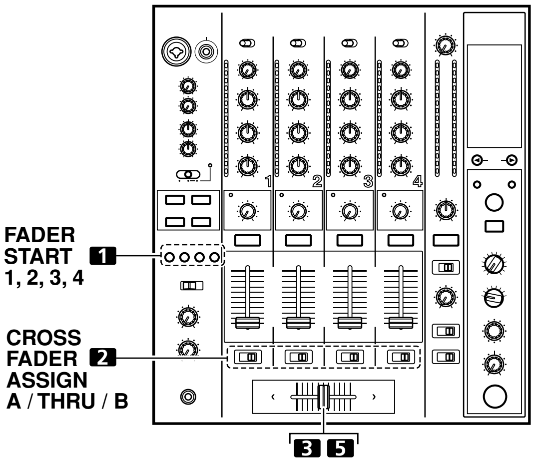
【チャンネルフェーダーでスタートする】



1. **制御したいCDプレーヤーを接続したチャンネル(1~4)のFADER STARTボタンを押す。**
   - 選んだチャンネルのボタンが点灯します。
2. **チャンネルフェーダーツマミを「0」位置にする。**
3. **CDプレーヤーでキューポイントを設定し、キューポイントでスタンバイさせる。**
   - あらかじめキューポイントが設定されていれば、キューポイントの位置でCDプレーヤーをスタンバイしておく必要はありません。
4. **スタートしたいタイミングで、チャンネルフェーダーツマミを動かす。**
   - CDプレーヤーが再生を始めます。
   - 再生開始後にチャンネルフェーダーツマミを「0」位置に戻すと、CDプレーヤーはキューポイントに戻り、スタンバイします(バックキュー)。

※ CROSS FADER ASSIGNスイッチが「THRU」の時のみ、チャンネルフェーダーで制御できます。

【クロスフェーダーでスタートする】



1. **制御したいCDプレーヤーを接続したチャンネル(1~4)のFADER STARTボタンを押す。**
   - 選んだチャンネルのボタンが点灯します。
2. **選んだチャンネルのCROSS FADER ASSIGNスイッチを「A」または「B」にする。**
   - クロスフェーダーのチャンネルA(左側)にアサインするときは「A」にします。
   - クロスフェーダーのチャンネルB(右側)にアサインするときは「B」にします。
3. **クロスフェーダーツマミをスタートさせたいチャンネルとは逆の方向いっぱいに移動する。**
4. **CDプレーヤーでキューポイントを設定し、キューポイントでスタンバイさせる。**
   - あらかじめキューポイントが設定されていれば、キューポイントの位置でCDプレーヤーをスタンバイしておく必要はありません。
5. **スタートしたいタイミングで、クロスフェーダーツマミを動かす。**
   - CDプレーヤーが再生を始めます。
   - 再生開始後にクロスフェーダーツマミをいっぱいに移動すると、反対側のチャンネルにアサインされたCDプレーヤーはキューポイントに戻り、スタンバイします(バックキュー)。

注)
デジタル接続のみでは、フェーダースタート機能はできません。
必ずCDプレーヤーのアナログ端子も接続してください。

エフェクト機能

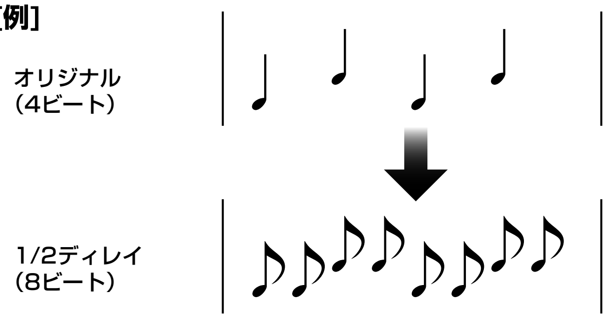
本機にはBPMに連動するビートエフェクトと、各チャンネルに備え付けられたCOLORツマミに連動するサウンドカラーエフェクトとで、合わせて18種類（SND/RTNを含む）の基本エフェクトを内蔵し、各種エフェクトのパラメーターを変えることにより多種多様なエフェクトが得られます。
ビートエフェクトは、TIMEツマミの操作による時間的パラメーターの設定（パラメーター1）、およびMIX/DEPTHツマミの操作による量的パラメーターの設定（パラメーター2）により多様なエフェクトが得られます。
また、サウンドカラーエフェクトではCOLORツマミの位置による変化を加えます。ビートエフェクトとサウンドカラーエフェクトを組み合わせることで、さらに多様なエフェクト効果を得ることもできます。

ビートエフェクトの種類

1. ディレイ（DELAY：繰り返し音1回）

1/8、1/4、1/2、3/4、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1ビート（拍）のディレイ音を素早く簡単に合わせることができます。
たとえば、1/2ビートのディレイ音を合わせると、4拍子が8拍子になります。
また、3/4ビートのディレイ音を合わせると、跳ねたリズムになります。

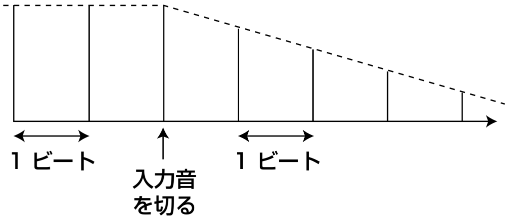
[例]



2. エコー（ECHO：繰り返し音数回）

1/8、1/4、1/2、3/4、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1ビート（拍）のエコー音を素早く簡単に合わせることができます。
たとえば、1/1ビートのエコー音で入力音を切ると、ビートに合わせた音を繰り返しながらフェードアウトします。
また、1/1ビートのエコー音をマイクにかけると、マイク音がビートに合わせながら繰り返し再生します。
また、1/1ビートのエコー音を曲のボーカルにかけると輪唱効果が得られます。

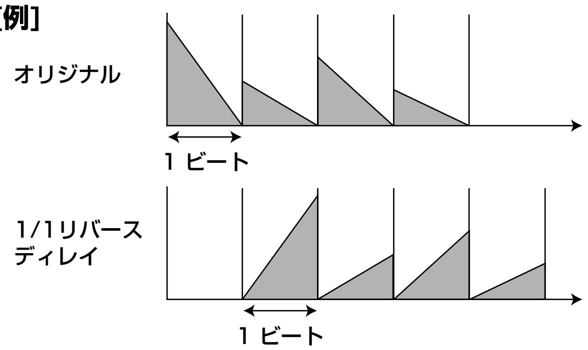
[例]



3. リバースディレイ（REVERSE DELAY：繰り返し音1回）

1/8、1/4、1/2、3/4、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1ビート（拍）の逆転したディレイ音を素早く簡単に合わせることができます。

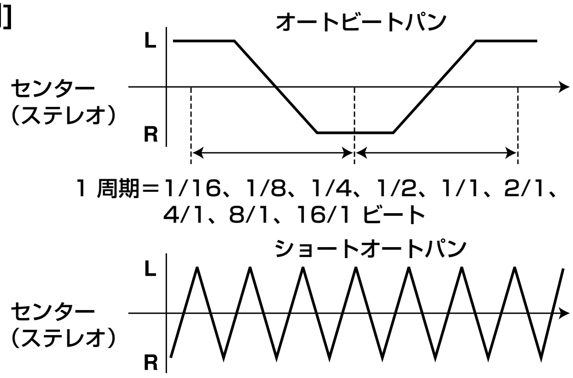
[例]



4. オートパン（PAN（L-R BALANCE））

1/16、1/8、1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1ビート（拍）単位で音を自動的にリズムに合わせ、左右に音を振ること（オートビートパン）ができます。
また、人間の手の操作では不可能な、短時間で左右に音を振るショートオートパンも可能です。

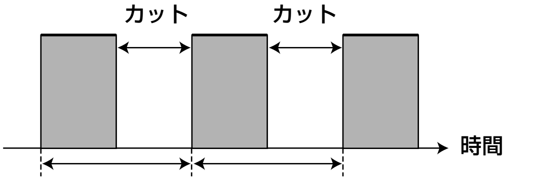
[例]



5. オートトランス（TRANS）

1/16、1/8、1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1ビート（拍）単位で、音を自動的にリズムに合わせてカットします。

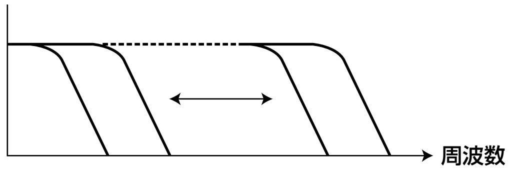
[例]



6. フィルター (FILTER)

1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1、32/1、64/1ビート(拍)単位でフィルターの周波数を移動させ、音色を大きく変化させます。

[例]

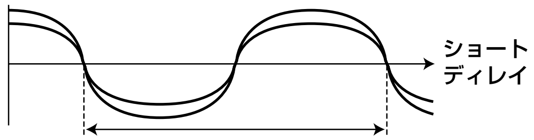


1 周期＝1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1、32/1、64/1 ビート

7. フランジャー (FLANGER)

1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1、32/1、64/1ビート(拍)単位で1周期のフランジャー効果を素早く簡単に作り出すことができます。

[例]

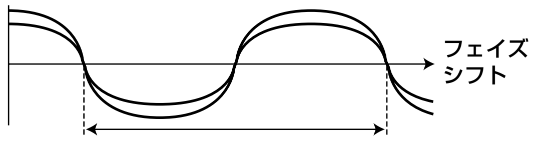


1 周期＝1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1、32/1、64/1 ビート

8. フェイザー (PHASER)

1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1、32/1、64/1ビート(拍)単位で1周期のフェイザー効果を素早く簡単に作り出すことができます。

[例]



1 周期＝1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1、32/1、64/1 ビート

9. リバーブ (REVERB)

音の残響効果が得られます。

10. ロボット (ROBOT)

入力音をロボットが発しているような効果が得られます。

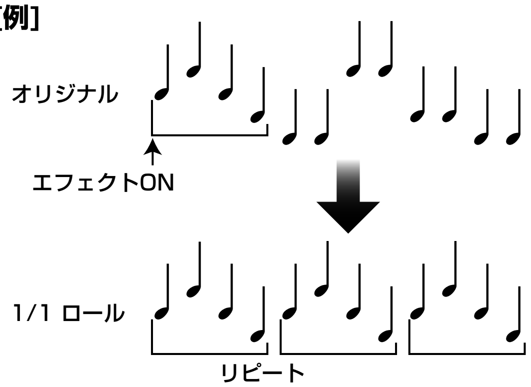
11. コーラス (CHORUS)

1/8、1/4、1/2、3/4、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1ビート(拍)に合わせたコーラス音を調整することができます。
同じ音程の音が複数の音源から出ているような広がりのある効果が得られます。

12. ロール (ROLL)

1/16、1/8、1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1ビート(拍)の音を記録し、繰り返して出力することができます。
また、1/1 ビートから1/2、1/4とビートに合わせて変えていくと、ロール音を作り出すことができます。

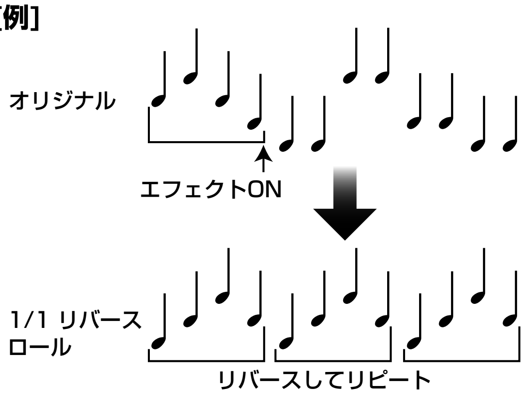
[例]



13. リバースロール (REVERSE ROLL)

1/16、1/8、1/4、1/2、1/1、2/1、4/1、8/1、16/1ビート(拍)の音を記録し、逆転させて繰り返して出力することができます。
また、1/1 ビートから1/2、1/4とビートに合わせて変えていくと、逆再生のロール音を音を作り出すことができます。

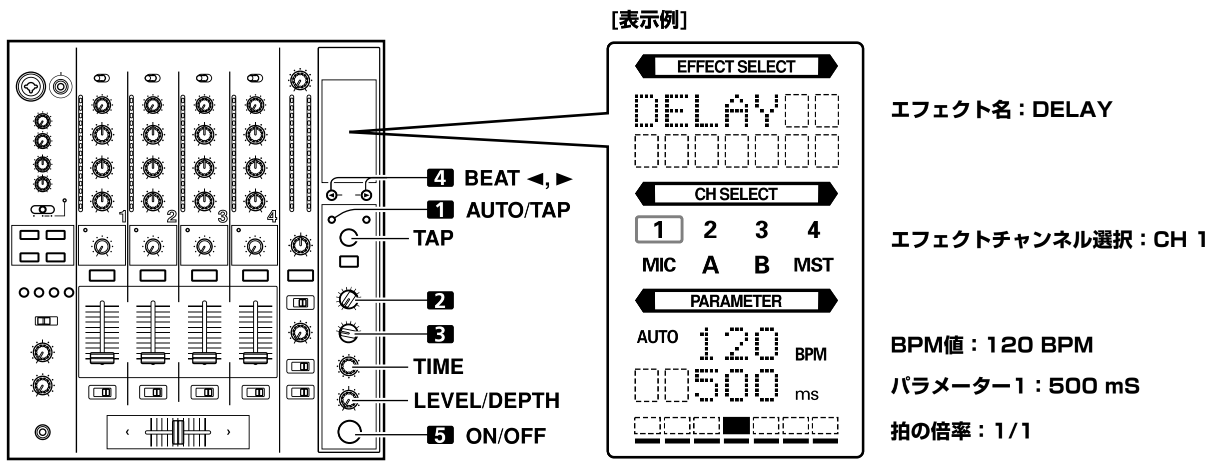
[例]



14. センド／リターン (SEND/RETURN)

お手持ちのサンプラー、エフェクターなどを接続することにより、多彩なエフェクトが可能です。

ビートエフェクト操作



ビートエフェクトはBPM(1分間の拍数)に同期したエフェクトタイムを瞬時に設定できるため、リズムに合わせたさまざまなエフェクトをライブ演奏でも実現できます。

1. AUTO/TAPボタンを押して、BPM(1分間の拍数=曲のスピード)の測定モードを選ぶ。

AUTO: 入力される音楽信号から自動測定します。
TAP: TAPボタンを指で叩いてBPMをマニュアル入力します。

- 電源ON時は「**AUTO**」が選択されます。
- 選んだモードのインジケーター(**AUTO/TAP**)が表示部で点灯します。
- BPMを計測できない場合は表示部のBPM値表示が点滅します。
- AUTOモード時の測定範囲はBPM=70～180です。
  曲によっては正しく測定できない場合があります。
  その場合は、TAPモードでマニュアル入力してください。

[TAPボタンによるBPMのマニュアル入力]
TAPボタンを拍(4分音符)に合わせて2回以上指で叩くと、その間隔の平均値がBPMとして設定されます。

- BPMモードが「**AUTO**」のときに**TAP**ボタンを押すと、BPM測定モードがTAPモードになり、**TAP**ボタンが叩かれた間隔を測定します。
- **TAP**ボタンでBPMを設定すると、拍の倍率は「**1/1**」または「**4/1**」(選択したエフェクトによる)になり、1拍(4分音符)または4拍の時間がエフェクトタイムに設定されます。
- **TAP**ボタンを押しながら**TIME**ツマミを回すとBPMを手動で直接設定できます。
  TAPボタンと**AUTO/TAP**ボタンを押しながら**TIME**ツマミを回すとBPMを0.1単位で設定できます。

2. エフェクト選択スイッチでエフェクトの種類を選ぶ。

- 表示部に選んだエフェクト名が表示されます。
- 各エフェクトについては15～16ページをご覧ください。

3. エフェクトチャンネル選択スイッチで、エフェクトをかけるチャンネルを選ぶ。

- 表示部のチャンネル名表示に、選んだチャンネルが赤枠で表示されます。
- 「**MIC**」を選択すると、マイク1とマイク2の両方にエフェクトが掛かります。

4. BEATボタン(◄、►)を押して、エフェクトを同期させる拍の倍率を選ぶ。

- 「►」を押すとBPMから計算される拍数を倍にし、「◄」を押すとBPMから計算される拍数を半分にします(一部のエフェクトには「3/4」の設定があります)。
- 選んだ拍の倍率(パラメーター1の位置)が表示部に7ポジションで表示されます(12ページ参照)。
- 拍の倍率に対応したエフェクトタイムが自動設定されます。
  【例】BPM=120の場合
  1/1 = 500 ms
  1/2 = 250 ms
  2/1 = 1 000 ms

5. ON/OFFボタンをONにして、エフェクトを機能させる。

- ボタンを押す毎にONとOFFを繰り返します(電源ON時は「**OFF**」が選択されます)。
- エフェクトON時は**ON/OFF**ボタンが点滅します。

パラメーター1

TIME (PARAMETER 1) ツマミを回すことにより、選択したエフェクトに対する時間的なパラメーターを調整します。
TIME (PARAMETER 1) ツマミを回すことによるパラメーター1の変化については19ページをご覧ください。

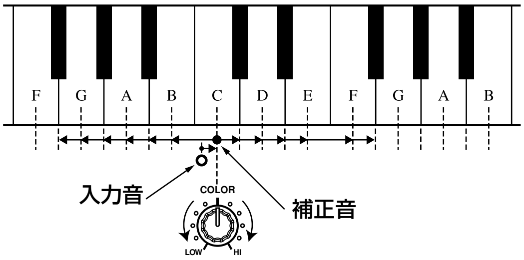
パラメーター2

LEVEL/DEPTH (PARAMETER 2) ツマミを回すことにより、選択したエフェクトに対する量的なパラメーターを調整します。
LEVEL/DEPTH (PARAMETER 2) ツマミを回すことによるパラメーター2の変化については19ページをご覧ください。

サウンドカラーエフェクトの種類

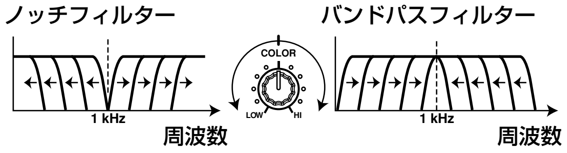
1. ハーモニック（HARMONIC）

入力音と音階の周波数のズレを検出し、最も近い音階に自動で補正します。
ツマミを回すことによって、±6半音の範囲で音程（ピッチ、キー）を変えることができます。



2. スイープ（SWEEP）

フィルターの周波数を移動させ、音色を大きく変化させることができます。
右に回すとバンドパスフィルター、左に回すとノッチフィルターの効果が得られます。

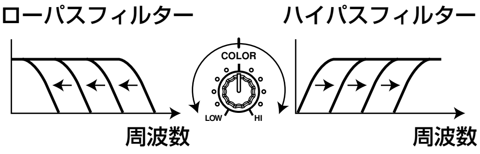


3. クラッシュ（CRUSH）

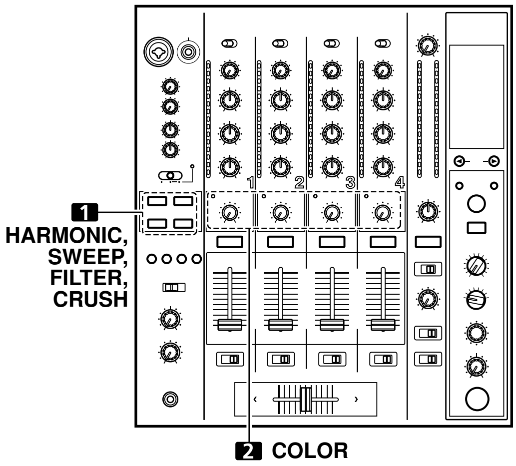
音を程よく壊して、音にアクセントを付けることができます。

4. フィルター（FILTER）

フィルターの周波数を移動させ、音色を大きく変化させることができます。
右に回すとハイパスフィルター、左に回すとローパスフィルターの効果が得られます。



サウンドカラーエフェクト操作



サウンドカラーエフェクトは、各チャンネルのCOLORツマミに連動するエフェクトです。
※ サウンドカラーエフェクトはマイク入力にはかかりません。

1. サウンドカラーエフェクト選択ボタン（HARMONIC、SWEEP、FILTER、CRUSH）を押して、エフェクトを選ぶ。

ハーモニック（HARMONIC）：
曲のキーを合わせて音程を変化させるエフェクトです。
スイープ（SWEEP）：
曲をフィルターに通して出力します。
クラッシュ（CRUSH）：
曲の音を壊したような音にします。
フィルター（FILTER）：
曲をフィルターに通して出力します。

- 選んだエフェクトのボタンが点滅します。
- チャンネル1～4は同じエフェクトになります。
- 点滅しているボタンを押すと点灯し、エフェクトがOFFになります。
- 電源ON時はすべてOFF（点灯）になります。

2. サウンドカラーエフェクトパラメーターツマミ（COLOR）でエフェクトの量的パラメーターを調整します。

- チャンネルごとに独立して調整できます。
- ハーモニックエフェクトの状況に応じて、ハーモニックインジケーターの色が変化します。
  赤：音階の周波数とのズレの検出が完了した。
  緑：音階の周波数に合っている。
  消灯：音階の周波数とのズレを検出中。

エフェクトパラメーター

ビートエフェクト (*1)

名称	拍スイッチのパラメーター	パラメーター1(TIMEツマミ) 説明		パラメーター2 (MIX/DEPTHツマミ)説明
1 ディレイ DELAY	BPMの一拍の時間に対して1/8～16/1のディレイタイムを設定します。	ディレイタイムを設定します。	1～4 000(ms)	原音とディレイ音のバランスを設定します。
2 エコー ECHO (*2)	BPMの一拍の時間に対して1/8～16/1のディレイタイムを設定します。	ディレイタイムを設定します。	1～4 000(ms)	原音とエコー音のバランスを設定します。
3 リバースディレイ REVERSE DELAY	BPMの一拍の時間に対して1/8～16/1のディレイタイムを設定します。	ディレイタイムを設定します。	10～4 000(ms)	原音とディレイ音のバランスを設定します。
4 パン PAN	BPMの一拍の時間に対して1/16～16/1の左右に音を振る時間を設定します。	エフェクト時間を設定します。	10～16 000(ms)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
5 トランス TRANS	BPMの一拍の時間に対して1/16～16/1のカット時間を設定します。	エフェクト時間を設定します。	10～16 000(ms)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
6 フィルター FILTER	カットオフ周波数を移動させる周期をBPMの一拍の時間に対して1/4～64/1の時間を設定します。	カットオフ周波数が移動する周期を設定します。	10～32 000(ms)	右に回すほど効果が強調されます。
7 フランジャー FLANGER	フランジ効果を移動させる周期をBPMの一拍の時間に対して1/4～64/1の時間を設定します。	フランジ効果が移動する周期を設定します。	10～32 000(ms)	右に回すほど効果が強調されます。左に回し切ると原音のみの出力になります。
8 フェイザー PHASER	フェイズ効果を移動させる周期をBPMの一拍の時間に対して1/4～64/1の時間を設定します。	フェイズ効果が移動する周期を設定します。	10～32 000(ms)	右に回すほど効果が強調されます。左に回し切ると原音のみの出力になります。
9 リバーブ REVERB (*2)	反響効果の程度を1～100 %の間で設定します。	反響効果の程度を設定します。	1～100(%)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
10 ロボット ROBOT	ロボット音の音程の効果を－100～100 %の間で設定します。	ロボット音の音程の効果を設定します。	－100～100(%)	右に回すほど効果が強調されます。
11 コーラス CHORUS	コーラス音の揺れの周期をBPMの一拍の時間に対して1/4～64/1の時間を設定します。	コーラス音の変調する周期を設定します。	10～32 000(ms)	コーラス音のバランスを設定します。
12 ロール ROLL (*2)	BPMの一拍の時間に対して1/16～16/1のエフェクト時間を設定します。	エフェクト時間を設定します。	10～4 000(ms)	原音とROLL音のバランスを設定します。
13 リバースロール REVERSE ROLL (*2)	BPMの一拍の時間に対して1/16～16/1のエフェクト時間を設定します。	エフェクト時間を設定します。	10～4 000(ms)	原音とROLL音のバランスを設定します。
14 センド/リターン SEND/RETURN	—	—	—	RETURN入力の音量を設定します。

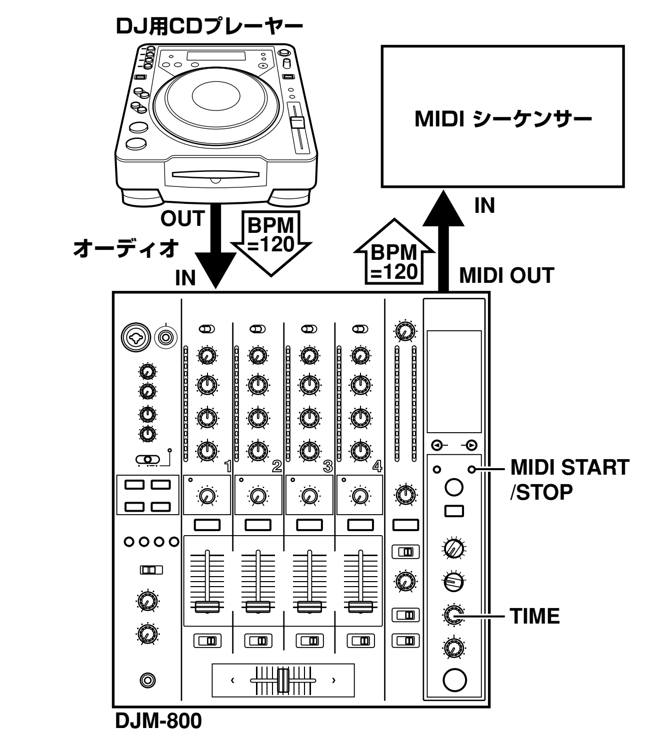
(*1) エフェクトチャンネル選択スイッチが「CF.A」、「CF.B」、「MASTER」のとき、エフェクトモニターをONにしても、マスター出力にそのチャンネルの音が出力されていないとエフェクト音は聞こえません。
(*2) エフェクトをOFFにしているとき、モニターをエフェクターにしてもエフェクト音は聞こえません。

サウンドカラーエフェクト

名称	パラメーター(COLORツマミ)
1 ハーモニック HARMONIC	±6半音の範囲でピッチシフト量を設定します。 右に回すと＋6半音、左に回すと－6半音変化します。
2 スイープ SWEEP	フィルターのカットオフ周波数を設定します。 右に回すとバンドパスフィルター、左に回すとノッチフィルターの変化をします。
3 クラッシュ CRUSH	入力音を壊す程度を設定します。 左に回すと低域、右に回すと高域が強調されます。
4 フィルター FILTER	フィルターのカットオフ周波数を設定します。 右に回すとハイパスフィルター、左に回すとローパスフィルターの変化をします。

MIDIセッティング

MIDI（ミディ: Musical Instrument Digital Interface）とは、電子楽器やコンピューターの間で情報のやり取りを行うための統一規格です。MIDIコネクターを持つ機器どうしをMIDIケーブルで接続してデータを送ったり受け取ったりします。
DJM-800はMIDIにより、機器の操作情報およびBPM情報（タイミングクロック）を送ったり受け取ったりします。



オーディオ信号に外部シーケンサーを同期させる、または外部シーケンサーをDJM-800の操作情報で操作する

1. DJM-800のMIDI OUT端子とMIDIシーケンサーのMIDI IN端子を市販のMIDIケーブルで接続する。
   - MIDIシーケンサー側のシンクモードをスレーブにします。
   - MIDIタイミングクロックに対応していないMIDIシーケンサーは同期できません。
   - BPM値が安定して測定できない曲では同期できません。
   - TAPモードで設定したBPM値でも、タイミングクロックを出力します。
2. MIDI START/STOPボタンを押す。
   - MIDIタイミングクロックの出力範囲は40〜250 BPMです。

（注意）
- 曲によってはBPMを正しく測定できない場合があります。

【MIDIチャンネルの設定】

MIDIチャンネル（1〜16）を設定でき、また記憶します。
1. MIDI START/STOPボタンを押しながら電源をONにする。
   - 「**MIDI CH SETTING**」が表示され、設定モードに入ります。
2. TIMEツマミを回してMIDIチャンネル選ぶ。
3. MIDI START/STOPボタンを押す。
   - MIDIチャンネルを登録します。
4. 電源をOFFにする。

MIDIメッセージ 一覧

カテゴリー	SW名	SWの種類	MIDIメッセージ						備考
			MSB			LSB			
CH1	TRIM	VR	Bn	01	dd				0~127
	HI	VR	Bn	02	dd				0~127
	MID	VR	Bn	03	dd				0~127
	LOW	VR	Bn	04	dd				0~127
	COLOR	VR	Bn	05	dd				0~127
	CUE	BUTTON	Bn	46	dd				OFF=0, ON=127
	FADER	VR	Bn	11	dd				0~127
	CF ASSIGN	SW	Bn	41	dd				0, 64, 127
CH2	TRIM	VR	Bn	06	dd				0~127
	HI	VR	Bn	07	dd				0~127
	MID	VR	Bn	08	dd				0~127
	LOW	VR	Bn	09	dd				0~127
	COLOR	VR	Bn	0A	dd				0~127
	CUE	BUTTON	Bn	47	dd				OFF=0, ON=127
	FADER	VR	Bn	12	dd				0~127
	CF ASSIGN	SW	Bn	42	dd				0, 64, 127
CH3	TRIM	VR	Bn	0C	dd				0~127
	HI	VR	Bn	0E	dd				0~127
	MID	VR	Bn	0F	dd				0~127
	LOW	VR	Bn	15	dd				0~127
	COLOR	VR	Bn	16	dd				0~127
	CUE	BUTTON	Bn	48	dd				OFF=0, ON=127
	FADER	VR	Bn	13	dd				0~127
	CF ASSIGN	SW	Bn	43	dd				0, 64, 127

カテゴリー	SW名	SWの種類	MIDIメッセージ						備考
			MSB			LSB			
CH4	TRIM	VR	Bn	50	dd				0~127
	HI	VR	Bn	51	dd				0~127
	MID	VR	Bn	5C	dd				0~127
	LOW	VR	Bn	52	dd				0~127
	COLOR	VR	Bn	53	dd				0~127
	CUE	BUTTON	Bn	49	dd				OFF=0, ON=127
	FADER	VR	Bn	14	dd				0~127
	CF ASSIGN	SW	Bn	44	dd				0, 64, 127
CROSS FADER	CROSS FADER	VR	Bn	0B	dd				0~127
FADER CURVE	CH CURVE	SW	Bn	5E	dd				0, 64, 127
	CROSS CURVE	SW	Bn	5F	dd				0, 64, 127
MASTER	MASTER LEVEL	VR	Bn	18	dd				0~127
	BALANCE	VR	Bn	17	dd				0~127
	CUE	BUTTON	Bn	4A	dd				OFF=0, ON=127
BOOTH	MONITOR	VR	Bn	19	dd				0~127
EFFECT	BEAT LEFT	BUTTON	Bn	4C	dd				OFF=0, ON=127
	BEAT RIGHT	BUTTON	Bn	4D	dd				OFF=0, ON=127
	AUTO/TAP	BUTTON	Bn	45	dd				OFF=0, ON=127
	TAP	BUTTON	Bn	4E	dd				OFF=0, ON=127
	CUE	BUTTON	Bn	4B	dd				OFF=0, ON=127
	EFFECT SELECT	SW	Cn	pc					下記プログラムチェンジ参照
	CH SELECT	SW	Cn	pc					
	TIME	SW	Bn	0D	MSB	Bn	2D	LSB	TIMEの値FLANGER、PHASER、CHORUS、FILTERは1/2倍値、マイナス値はプラスの値に変換される。
	LEVEL/DEPTH	VR	Bn	5B	dd				0~127
	EFFECT ON/OFF	BUTTON	Bn	40	dd				OFF=0, ON=127
MIC	HI	VR	Bn	1E	dd				0~127
	LOW	VR	Bn	1F	dd				0~127
(SOUND COLOR FX)	HARMONIC	BUTTON	Bn	54	dd				OFF=0, ON=127
	SWEEP	BUTTON	Bn	55	dd				OFF=0, ON=127
	CRUSH	BUTTON	Bn	56	dd				OFF=0, ON=127
	FILTER	BUTTON	Bn	57	dd				OFF=0, ON=127
(FADER START)	1	BUTTON	Bn	58	dd				OFF=0, ON=127
	2	BUTTON	Bn	59	dd				OFF=0, ON=127
	3	BUTTON	Bn	5A	dd				OFF=0, ON=127
	4	BUTTON	Bn	5D	dd				OFF=0, ON=127
(HEAD PHONES)	MIXING	VR	Bn	1B	dd				0~127
	LEVEL	VR	Bn	1A	dd				0~127
MIDI	START	BUTTON	FA						
	STOP	BUTTON	FC						

プログラムチェンジ

MSB LSB

0	0	EFFSEL2	EFFSEL1	EFFSEL0	EFFCH2	EFFCH1	EFFCH0

• EFFECT SEL BEAT

EFFSEL2	EFFSEL1	EFFSEL0	
0	0	1	DELAY
0	1	0	ECHO
–	–	–	REV DELAY
0	1	1	PAN
1	0	0	TRANS
1	1	0	FILTER
1	0	1	FLANGER
1	1	1	PHASER
–	–	–	REVERB
–	–	–	ROBOT
–	–	–	CHORUS
–	–	–	ROLL
–	–	–	REV ROLL
–	–	–	SND/RTN

• EFFECT CH

EFFCH2	EFFCH1	EFFCH0	
0	0	1	1
0	1	0	2
0	1	1	3
1	0	0	4
1	0	1	MIC
1	1	0	CF.A
1	1	1	CF.B
–	–	–	MST

スナップショット

DJM-800を目的の値に設定したら、その状態をスナップショットすることができます。
スナップショットすると、コントロールチェンジ、プログラムチェンジの全メッセージを送信します。
MIDI START/STOPボタンを長押しすることにより、スナップショットを送信します。

故障？ちょっと調べてください

故障かな？…と思ったら、ちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。同時に使用している電気機器もあわせてお調べください。
下の項目をチェックしても直らない場合は、お買い上げの販売店またはパイオニア修理受付センター(裏表紙参照)へご連絡ください。

症　状	考えられる原因	処　置
電源が入らない。	● 電源コードがつながっていない。	● 電源コンセントへつなぐ。
音が出ない、または小さい。	● 入力切換スイッチの位置が間違っている。 ● 後面のデジタル／CD入力切換スイッチ(DIGITAL/CD)またはデジタル／ライン入力切換スイッチ(DIGITAL/LINE)の選択が間違っている。 ● 接続コードが正しく接続されていない。または、外れている。 ● 端子やプラグが汚れている。 ● 後面のマスター出力アッテネータースイッチ（MASTER ATT.)が－12dBなどになっている。	● 入力切換スイッチで再生中の機器を選ぶ。 ● 後面のデジタル／CD入力切換スイッチ(DIGITAL/CD)またはデジタル／ライン入力切換スイッチ(DIGITAL/LINE)で再生中の機器を選ぶ。 ● 正しく接続する。 ● 汚れを拭き取って接続する。 ● 後面のマスター出力アッテネータースイッチ（MASTER ATT.）を調整する。
BOOTH出力からマイクの音が出ない。	● 後面のマイクシグナルスイッチ(MIC SIGNAL)がCUTになっている。	● マイクシグナルスイッチ(MIC SIGNAL)をADDにする。
デジタル出力されない。	● デジタル出力のサンプリング周波数（fs）が、接続機器の仕様と合っていない。	● 後面のサンプリング周波数切換スイッチを接続機器の仕様に合わせて切り換える。
音が歪む。	● マスター出力レベルが高すぎる。 ● 入力レベルが高すぎる。	● マスター出力レベル調整ツマミ(MASTER LEVEL)か後面のマスター出力アッテネータースイッチ（MASTER ATT.）を調整する。 ● TRIMツマミを調整して、入力レベルがチャンネルレベルインジケーターの0dB付近になるようにする。
クロスフェードできない。	● クロスフェーダーアサインスイッチの設定（A、THRU、B）が正しくない。	● クロスフェードするチャンネルのクロスフェーダーアサインスイッチを正しく設定する。
CDプレーヤーのフェーダースタートができない。	● フェーダースタートスイッチがOFFになっている。 ● 後面のCONTROL端子をCDプレーヤーと接続していない。 ● 後面のCONTROL端子だけをCDプレーヤーと接続している。	● フェーダースタートスイッチをONにする。 ● コントロールコードで本機とCDプレーヤーのCONTROL端子を接続する。 ● CONTROL端子とアナログ入力端子の両方を接続する。
エフェクトが効かない。	● エフェクトチャンネル選択スイッチの設定が正しくない。 ● エフェクトパラメーター2調整ツマミ(LEVEL/DEPTH)がMIN（最小）になっている。	● エフェクトをかけたいチャンネルを正しく選択する。 ● エフェクトパラメーター2調整ツマミ(LEVEL/DEPTH)を調整する。
外部エフェクターが効かない。	● エフェクト選択スイッチがSND/RTNになっていない。 ● 後面のセンド／リターン端子にエフェクターが接続されていない。 ● エフェクトチャンネル選択スイッチの位置を間違えている。	● エフェクト選択スイッチをSND/RTNにする。 ● 後面のセンド／リターン端子にエフェクターを接続する。 ● エフェクトをかけたいソースをエフェクトチャンネル選択スイッチで選ぶ。
外部エフェクターの音が歪む。	● 外部エフェクターからの入力レベルが高すぎる。	● 外部エフェクターの出力レベルを下げる。
BPMが測定できない。 BPMの測定値がおかしい。	● 入力レベルが高すぎる。または低すぎる。 ● 曲によってはBPMを測定できない場合がある。	● TRIMツマミを調整して、入力レベルがチャンネルレベルインジケーターの0dB付近になるようにする。 ● 他のチャンネルも入力レベルがチャンネルレベルインジケーターの0dB付近になるようにする。 ● TAPボタンをたたいて手動でBPMを設定する。
測定したBPM値がCDの記載値と異なる。	● BPMの測定法が違うため、多少異なった値を示すことがあります。	● 処置は不要です。
MIDIシーケンサーが同期しない。	● MIDIシーケンサーのシンクモードがスレーブになっていない。 ● MIDIシーケンサーが対応していない。	● MIDIシーケンサーのシンクモードをスレーブにする。 ● MIDIタイミングクロックに対応していないMIDIシーケンサーは同期できません。

● 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このようなときは、電源コードを一度抜いて再び差し込むことで正常になる場合があります。これで解決しないときは、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付センター(裏表紙参照)へご相談ください。

保証とアフターサービスについて

保証書(別に添付してあります。)について

保証書は、必ず「取扱店名・購入日」などの記入を確かめ取扱店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間と保証内容について

- **保証期間について**
  保証期間は、取扱説明書の注意に従った使用で、ご購入日より1年間です。
- **次のような場合には保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、性能、動作の保証をいたしません。また、故障した場合の修理についてもお受けいたしかねます。**
  本機を改造して使用した場合、不正使用や使用上の誤りの場合または他社製品や純正以外の付属品と組み合わせて使用したときに、動作異常などの原因が本機以外にあった場合。
- **故障、故障の修理その他にともなう営業上の機会損失(逸失利益)は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず補償いたしかねますのでご了承ください。**

補修用性能部品の保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後8年間保有しています。

修理を依頼されるとき

本書の「故障?ちょっと調べてください」をお読みいただき、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しないときには、必ず電源プラグを抜いてから、次の要領で修理を依頼してください。

- **保証期間中は**
  万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社無料修理規定に基づき修理いたします。お求めの販売店またはパイオニア修理受付センター(裏表紙参照)にご相談ください。保証書の規定に従って修理いたします。

連絡していただきたい内容
- ご住所 · お名前 · お電話番号
- 製品名:DJミキサー
  型番:DJM-800
  お買い上げ日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日
- 訪問先までの道順と目標(建物、公園など)

- **保証期間が過ぎているときは**
  お求めの販売店またはパイオニア修理受付センターにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

仕　様

1. 一般

電源 .... AC 100V、50/60 Hz
消費電力 .... 25 W
動作温度 .... +5 ℃～+35 ℃
動作湿度 .... 5 %～85 % (結露無きこと)
質量 .... 8.0 kg
最大外形寸法 .... 320 (幅)×381 (奥行き)×108 (高さ) mm

2. オーディオ部

サンプリングレート .... 96 kHz
A/D、D/Aコンバーター .... 24 bits
周波数特性
　LINE .... 20 Hz～20 kHz
　MIC .... 20 Hz～20 kHz
　PHONO .... 20 Hz～20 kHz(RIAA)
SN比（定格出力時）
　LINE .... 105 dB
　PHONO .... 88 dB
　MIC .... 84 dB
歪率 (LINE－MASTER1) .... 0.005 %
基準入力レベル／入力インピーダンス
　PHONO 2～4 .... −52 dBu /47 kΩ
　MIC 1、MIC 2 .... −52 dBu /3 kΩ
　LINE、LINE/CD 1～4 .... −12 dBu /22 kΩ
　RETURN .... −12 dBu /22 kΩ
基準出力レベル／負荷インピーダンス／出力インピーダンス
　MASTER1 .... +2 dBu /10 kΩ /10 Ω以下
　MASTER2 .... +2 dBu /10 kΩ /1 kΩ
　REC .... −8 dBu /10 kΩ /1 kΩ
　BOOTH .... +2 dBu /600 Ω /600 Ω
　SEND .... −12 dBu /10 kΩ /1 kΩ
　PHONES .... +8.5 dBu /32 Ω /22 Ω以下
定格出力レベル／負荷インピーダンス
　MASTER1 .... +22 dBu /10 kΩ
　MASTER2 .... +20 dBu /10 kΩ
クロストーク（LINE） .... 82 dB
チャンネルイコライザー特性
　HI .... −26 dB～+6 dB (13 kHz)
　MID .... −26 dB～+6 dB (1 kHz)
　LOW .... −26 dB～+6 dB (70 Hz)
マイクイコライザー特性
　HI .... −12 dB～+6 dB (10 kHz)
　LOW .... −12 dB～+6 dB (100 Hz)

3. 入出力端子

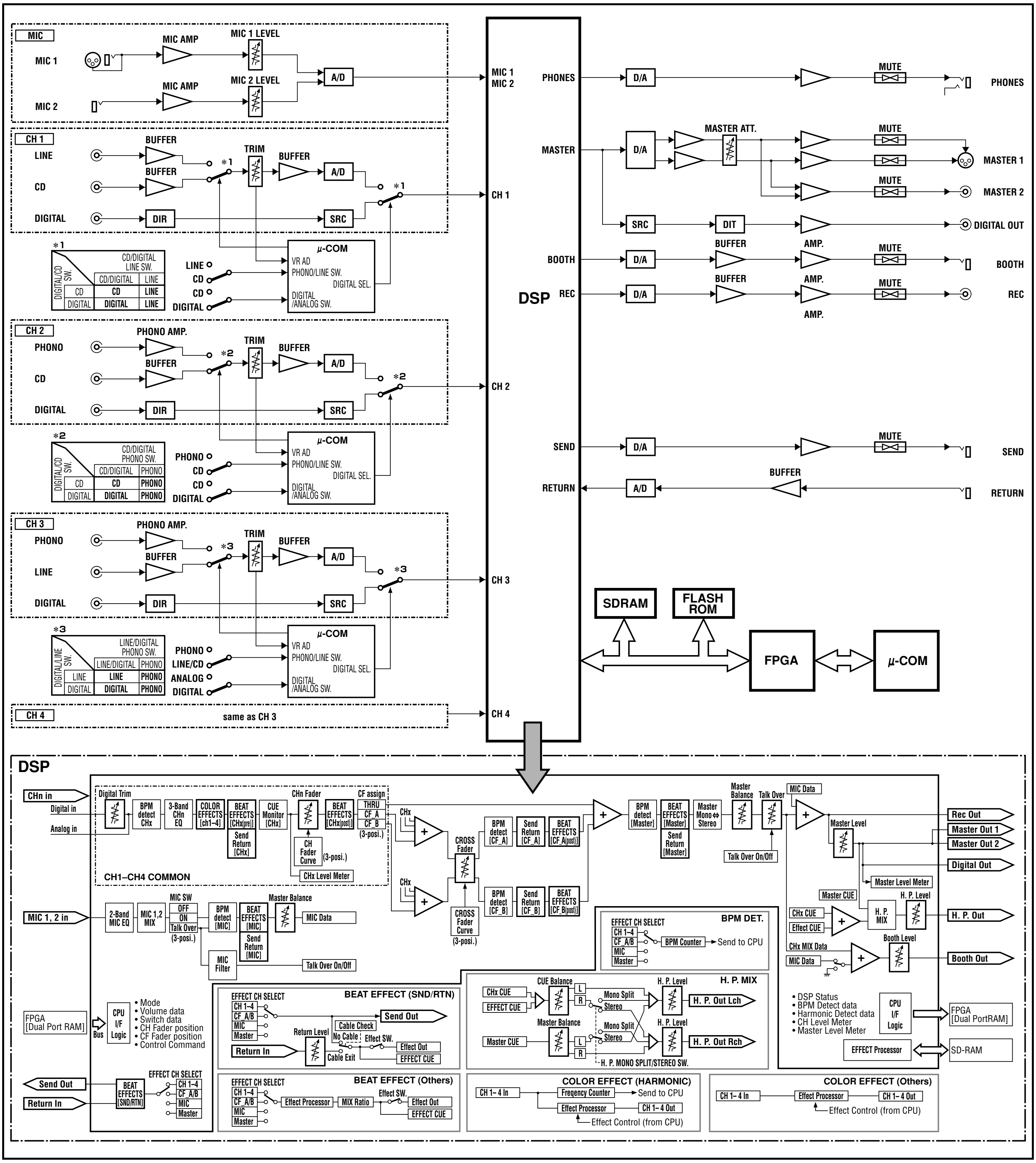
PHONO入力端子
　RCAピンジャック 3
LINE/CD入力端子
　RCAピンジャック 4
LINE入力端子
　RCAピンジャック 1
MIC入力端子
　XLRコネクター/フォーンジャック（φ6.3 mm） 1
　フォーンジャック（φ6.3 mm） 1
DIGITAL同軸入力端子
　RCAピンジャック 4
RETURN入力端子
　フォーンジャック（φ6.3 mm） 1
MASTER出力端子
　XLRコネクター 1
　RCAピンジャック 1
BOOTH出力端子
　フォーンジャック（φ6.3 mm） 1
REC出力端子
　RCAピンジャック 1
SEND出力端子
　フォーンジャック（φ6.3 mm） 1
DIGITAL同軸出力端子
　RCAピンジャック 1
MIDI OUT端子
　5P DIN 1
PHONES出力端子
　ステレオフォーンジャック（φ6.3 mm） 1
CONTROL端子
　ミニフォーンジャック（φ3.5 mm） 4

4. 付属品

取扱説明書 1
電源コード 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1
保証書 1

上記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ブロックダイヤグラム


MIC
MIC 1
MIC 2
MIC AMP
MIC 1 LEVEL
MIC 2 LEVEL
A/D
CH 1
LINE
CD
DIGITAL
BUFFER
TRIM
DIR
SRC
*1
CD/DIGITAL LINE SW.
DIGITAL/CD SW.
μ-COM
VR AD
PHONO/LINE SW.
DIGITAL SEL.
DIGITAL /ANALOG SW.
CH 2
PHONO
PHONO AMP.
*2
CD/DIGITAL PHONO SW.
CH 3
*3
LINE/DIGITAL PHONO SW.
DIGITAL/LINE SW.
LINE/CD
ANALOG
CH 4
same as CH 3
MIC 1
MIC 2
DSP
PHONES
MASTER
BOOTH
REC
SEND
RETURN
D/A
MASTER ATT.
MUTE
MASTER 1
MASTER 2
DIGITAL OUT
DIT
AMP.
SDRAM
FLASH ROM
FPGA
μ-COM
CHn in
Digital in
Analog in
Digital Trim
BPM detect CHx
3-Band CHn EQ
COLOR EFFECTS [ch1–4]
BEAT EFFECTS [CHx(pre)]
CUE Monitor [CHx]
Send Return [CHx]
CHn Fader
CH Fader Curve
(3-posi.)
BEAT EFFECTS [CHx(post)]
CF assign
THRU
CF_A
CF_B
CHx Level Meter
CH1–CH4 COMMON
CHx
CROSS Fader
CROSS Fader Curve
BPM detect [CF_A]
Send Return [CF_A]
BEAT EFFECTS [CF_A(post)]
BPM detect [CF_B]
Send Return [CF_B]
BEAT EFFECTS [CF_B(post)]
BPM detect [Master]
BEAT EFFECTS [Master]
Send Return [Master]
Master Mono⇔Stereo
Master Balance
Talk Over
Talk Over On/Off
MIC Data
Master Level
Rec Out
Master Out 1
Master Out 2
Digital Out
Master Level Meter
H. P. Level
Master CUE
CHx CUE
Effect CUE
H. P. MIX
H. P. Out
CHx MIX Data
Booth Level
Booth Out
MIC 1, 2 in
2-Band MIC EQ
MIC 1,2 MIX
MIC SW
OFF
ON
Talk Over
BPM detect [MIC]
BEAT EFFECTS [MIC]
Send Return [MIC]
MIC Filter
EFFECT CH SELECT
CH 1–4
CF_A/B
MIC
Master
BPM DET.
BPM Counter
Send to CPU
BEAT EFFECT (SND/RTN)
Send Out
Return Level
Cable Check
No Cable
Effect SW.
Return In
Cable Exit
Effect Out
EFFECT CUE
CUE Balance
Mono Split
Stereo
H. P. Out Lch
H. P. Out Rch
H. P. MONO SPLIT/STEREO SW.
FPGA [Dual Port RAM]
CPU I/F Logic
Bus
• Mode
• Volume data
• Switch data
• CH Fader position
• CF Fader position
• Control Command
• DSP Status
• BPM Detect data
• Harmonic Detect data
• CH Level Meter
• Master Level Meter
FPGA [Dual PortRAM]
EFFECT Processor
SD-RAM
BEAT EFFECTS [SND/RTN]
BEAT EFFECT (Others)
Effect Processor
MIX Ratio
COLOR EFFECT (HARMONIC)
CH 1– 4 In
Freqency Counter
CH 1– 4 Out
Effect Control (from CPU)
COLOR EFFECT (Others)

ご相談窓口・修理窓口のご案内

パイオニア製品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理を依頼される場合は、取扱説明書の「故障？ちょっと調べてください」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名　②ご購入日　③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

＜下記窓口へお問い合わせの時のご注意＞
市外局番「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

■ テクニカルサポートセンター（フリーダイヤル）
受付　月曜～金曜　10：00 ～ 18：00、土曜・日曜・祝日　10：00 ～ 12：00、13：00 ～ 17：00　（弊社休業日は除く）

▽ DJ機器のご相談窓口　電話（フリーダイヤル）　**0120-545-676**
ファックス　**03-3763-9503**

▽ インターネットホームページ　*http://www.pioneer.co.jp/support/index.html*
※ 商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

部品のご購入についてのご相談窓口

部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

■ 部品受注センター
受付　月曜～金曜　9：30 ～ 18：00、土曜・日曜・祝日　9：30 ～ 12：00、13：00 ～ 18：00　（弊社休業日は除く）

電話（フリーダイヤル）　**0120-5-81095**
一般電話　**0538-43-1161**
ファックス（フリーダイヤル）　**0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、修理受付センターへ（沖縄県の方は、沖縄サービスステーションへ）

■ 修理受付センター（沖縄県を除く全国）
受付　月曜～金曜　9：30 ～ 19：00、土曜・日曜・祝日　9：30 ～ 12：00、13：00 ～ 18：00　（弊社休業日は除く）

電話（フリーダイヤル）　**0120-5-81028**（ゴーパイオニア）
一般電話　**03-5496-2023**
ファックス（フリーダイヤル）　**0120-5-81029**

▽ インターネットホームページ　*http://www.pioneer.co.jp/support/repair.html*
※ インターネットによる修理受付対象品は、家庭用オーディオ／ビジュアル商品に限ります。

■ 沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）
受付　月曜～金曜　9：30 ～ 18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

一般電話　**098-879-1910**
ファックス　**098-879-1352**

愛情点検

長年ご使用の製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか?
- ◆ 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- ◆ 電源コードにさけめやひび割れがある。
- ◆ 電源が入ったり切れたりする。
- ◆ 本体から異常な音、熱、臭いがする。

⇩

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社修理受付センターに点検（有料）をご依頼ください。

© 2005 パイオニア株式会社　禁無断転載

パイオニア株式会社　〒153-8654　東京都目黒区目黒１丁目４番１号